ISSN　1348－902X

自治医科大学看護学部年報（第16号）
Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報（第12号）
Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing

2017

目　　次

○　**看護学部委員会等報告**

1. 人事委員会　春山　早苗 …… 5
2. 教務委員会　永井　優子 …… 6
3. 学生委員会　大塚公一郎 …… 8
4. FD評価実施委員会　本田　芳香 …… 10
5. 研究推進委員会　小原　　泉 …… 11
6. 広報委員会　半澤　節子 …… 12
7. 編集委員会　村上　礼子 …… 14
8. 国家試験対策委員会　野々山未希子 …… 15
9. 臨地実習指導研修委員会　中村　美鈴 …… 17
10. 入試実施委員会　横山　由美 …… 19

○　**大学院看護学研究科委員会等報告**

1. 研究科委員会　春山　早苗 …… 23
2. 研究科委員会幹事会　成田　　伸 …… 25

○　**教育研究分野別報告**

1. 看護基礎科学　大塚公一郎 …… 29
2. 基礎看護学　本田　芳香 …… 32
3. 地域看護学　春山　早苗 …… 35
4. 精神看護学　永井　優子 …… 39
5. 母性看護学　成田　　伸 …… 41
6. 小児看護学　横山　由美 …… 44
7. 成人看護学　中村　美鈴 …… 46
8. 老年看護学　宮林　幸江 …… 49

○　**大学院看護学研究科　教育の概要**

博士前期課程

実践看護学分野

1. 小児看護学領域　横山　由美 …… 55
2. 母性看護学領域　成田　　伸 …… 56
3. クリティカルケア看護学領域　中村　美鈴 …… 57
4. 精神看護学領域　半澤　節子 …… 59
5. がん看護学領域　本田　芳香 …… 60

地域看護管理学分野
6. 老年看護管理学領域　宮林　幸江 …… 62
7. 地域看護管理学領域　春山　早苗 …… 63
8. 看護技術開発学領域　村上　礼子 …… 64
9. 共通科目　成田　伸 …… 66
博士後期課程
1. 広域実践看護学分野　春山　早苗 …… 68

○ **研究業績録**

1. 看護基礎科学 …… 73
2. 基礎看護学 …… 75
3. 地域看護学 …… 76
4. 精神看護学 …… 80
5. 母性看護学 …… 82
6. 小児看護学 …… 83
7. 成人看護学 …… 84
8. 老年看護学 …… 86
9. 看護技術開発学 …… 87

○ **資料**

1. 2017年度（平成29年度）看護学部学年暦 …… 91
2. 自治医科大学看護学部の概況 …… 92
3. 看護学部教職員名簿 …… 93
4. 2017年度（平成29年度）大学院看護学研究科学年暦 …… 94
5. 大学院看護学研究科の概況 …… 94
6. 大学院看護学研究科教職員名簿 …… 95
7. 編集後記 …… 96

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長　春山　早苗

1．所管事項

⑴自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
⑵非常勤講師の選考に関する事項
⑶その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

⑴「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（4名以上7名以内）

表1　構成員と役割

氏　　名	役　割
春山学部長	委員長
永井教務委員長	委　員
大塚学生委員長	委　員
本田ＦＤ委員長	委　員
被選考教員の関連領域の教授等	委　員
学部長が必要と認めた者（２名以内）	委　員

3．活動内容

⑴「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により，表2のとおり人事委員会を開催した。

表2　2017年度の審議事項

回	開 催 日	審議事項
1	4月25日（火）	・看護学部臨地教授等の付与について（資格審査）
2	5月23日（火）	・看護学部臨地教授等の付与について（資格審査） ・平成30年度臨地教授等の付与等のスケジュール（案）について ・臨地教授等任用申請書の記載方法について
3	6月20日（火）	・臨地教授等の付与手続きについて
4	7月25日（火）	・平成29年度非常勤講師の任用について ・看護学部臨地教授等の付与等のスケジュール及び任用申請書に係る添付書類について
5	9月19日（火）	・看護学部臨地教授等の付与等のスケジュール（案）について
6	10月24日（火）	・看護基礎科学教員（教授・准教授）候補者選考について
7	12月19日（火）	・母性看護学教員（助教）候補者選考について ・小児看護学教員（助教）候補者選考について ・学内教員の昇任選考について
8	1月23日（火）	・基礎看護学教員（助教2名）候補者選考について ・地域看護学教員（助教1名）候補者選考について ・成人看護学教員（助教1名）候補者選考について ・看護学教員（助教1名）候補者選考について ・平成30年度非常勤講師の任用について
9	2月13日（火）	・精神看護学教員（助教）候補者選考について ・平成30年度非常勤講師の任用について ・平成30年臨地教授等の付与について
10	3月20日（火）	・平成30年度臨地教授等の付与について ・平成30年度非常勤講師の任用について

教務委員会

委員長　永井　優子

1．所管事項

1）授業及び試験に関する事項
2）単位及び課程の修了に関する事項
3）学生の入学，退学，休学および卒業等に関する事項
4）学生の修学指導に関する事項
5）授業関係の予算に関する事項
6）その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

本委員会は9名の委員と2名のオブザーバーで構成され，その構成員と役割を表1に示した。また，教務委員会の役割を果たすために，下部組織として，既修得単位認定担当，時間割担当，夏季へき地研修担当，共通物品管理担当，助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当，授業関係予算担当，カリキュラム運用担当，実習調整担当の8つがおかれ，委員以外の構成員を表2に示した。

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
永井　優子　教授	委員長
横山　由美　教授	副委員長，実習調整担当（主）
大塚　公一郎　教授	既修得単位認定担当（主），時間割担当（副）
塚本　友栄　教授	時間割担当（主）
中村　美鈴　教授	カリキュラム運用担当（副）
成田　伸　教授	カリキュラム運用担当（主）
野々山 未希子 教授	助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当
本田　芳香　教授	共通物品管理担当
宮林　幸江　教授	授業関連予算担当
小原　泉　教授（オブザーバー）	実習調整担当（副）
半澤　節子　教授（オブザーバー）	夏季へき地研修担当，既修得単位認定担当（副）

表2　下部組織

担当者氏名	担当
平尾　温司　准教授	時間割担当
鈴木　久美子　准教授 北田　志郎　准教授 長谷川　直人　講師 青木　さぎ里　助教 石井　慎一郎　講師	夏季へき地研修担当
清水　みどり　講師 望月　明見　講師 岡野　朋子　助教 古島　幸江　助教 佐藤　貴紀　助教 土谷　ちひろ　助教 手塚　園江　助教	共通物品管理担当
里光　やよい　准教授 川上　勝　准教授 平尾　温司　准教授 島田　裕子　講師	カリキュラム運用担当
佐藤　幹代　准教授 浜端　賢次　准教授	実習調整担当

3．活動内容

本年度の審議事項は，表3に示した。

表3　2017年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2017年4月13日	1．教務委員会の年間 2．下部組織の年間計画 3．2020年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考審査（案） 4．健康診断未受診者・感染症対策未実施者に関する警告（案）
2	5月11日	1．休学について 2．前学期履修状況 3．今年度ガイダンス・オリエンテーションの評価と次年度の方針
3	2017年6月8日	1．2020年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考審査案の決定 2．次年度以降の教育用機器備品購入計画（案） 3・ルーブリックを活用した実習評価に関する研修会（案） 4．「履修調べ」について
4	7月13日	1．次年度授業関係予算案・教室整備予算案 2．次年度年間実習科目配置案 3．実習要項におけるルーブリック作成に関する研修会企画（案） 4．「履修調べ」の目的と調査内容について 5．履修指導を要する学生への対応について 6．看護学教育モデル・コア・カリキュラムについて

5	9月14日	1．学生の休学・復学 2．次年度学年暦（案） 3．次年度モデル時間割（案） 4．次年度授業関係予算案・教室整備予算案 5．「履修調べ」（案）
6	10月12日	1．「総合実習」の評価 2．「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」の評価 3．次年度モデル時間割修正案 4．カリキュラムに関する学生の意見聴取計画案 5．卒業時到達度評価修正案 6．「履修調べ」
7	11月9日	1．学生の休学 2．今年度「履修調べ」案 3．シラバス執筆（案） 4．新カリキュラム説明会の実施計画案 5．次年度モデル時間割修正案 6．次年度オリエンテーション計画
8	12月14日	1．今年度「履修調べ」案 2．次年度学年暦・オリエンテーション計画 3．次年度実習教育説明会の企画案 4．次年度学生便覧および教育要綱について
9	2018年 1月11日	1．今年度「看護総合セミナー」の評価 2．今年度「研究セミナー」の評価 3．今年度「看護トピックス」の評価 4．学生便覧の構成案 5．「自治医科大学看護学部既修得単位認定規程」について 6．保健師資格に基づく養護教諭2種免許状取得のための旧カリキュラムの授業科目について
10	2月8日	1．4年次後学期単位取得と卒業認定 2．次年度授業関係予算内示・配分案 3．次年度3年次前学期実習学生配置案 4．次年度3年次後学期実習ローテーション案 5．卒業時到達度の評価 6．本学附属病院看護部から依頼された次年度以降の実習に関する要望（感染症対策）について
11	3月8日	1．学生の休学・復学 2．卒業認定者を除く学生の単位取得状況 3．今年度改正カリキュラム説明会 4．次年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生の決定 5．2018年度入学生に適用する助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考方法 6．次年度「看護トピックス」について

学生委員会

委員長　大塚公一郎

１．所管事項

⑴学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
⑵学生の健康管理及び学生相談に関する事項
⑶学生のキャリア支援に関する事項
⑷学長賞等の選考に関する事項
⑸看護学部学生寮の管理運営に関する事項
⑹奨学生の採用及び貸与に関する事項
⑺その他学部長が必要と認めた事項

２．委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために，奨学生選考担当，キャリア支援担当，学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は，表1の通りである。

表１　構成員と役割

氏　　名	役　　割
大塚公一郎　教　授	委員長
本田芳香　　教　授	副委員長 奨学生選考担当
北田志郎　　准教授	委員 学友会幹事
里光やよい　准教授	キャリア支援担当
鈴木久美子　准教授	奨学生選考担当
角川志穂　　准教授	キャリア支援担当
中野真理子　講　師	キャリア支援担当
長谷川直人　講　師	キャリア支援担当

表2　下部組織

氏　　名	役　　割
江角伸吾　　助教	キャリア支援担当
手塚園江　　助教	キャリア支援担当

３．活動内容

学生委員会は，「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して，平成29年度も，学生委員会は，学業（課外活動も含む）の奨励・支援，学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援，学生の健康問題解決への支援，学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

学部の学生は学生自治会を，また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し，自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は，本学部の看護学務課，看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は，各学生委員の学生との直接相談，学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談，カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は，学生健康管理チームが中心となって行い，また大学保健室の行う検診への受診の奨励，個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は，主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金，日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。

学生の将来の進路決定の支援は，キャリア支援担当が中心となって行った。29年6月5日に行われた附属病院による就職説明会とは別に、30年2月19日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会，寮自治会の運営の支援は，学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのもの支援として，入寮案内，寮生活オリエンテーション，防災訓練，寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動，クラブ活動，サークル活動などの課外活動を，学友会（本学部では，学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として，看護学部校舎における防災訓練を行った。４学年卒業予定者のなかより，学長賞候補者を選考し３名推薦した。

学生委員会は，8月を除いて毎月定例開催され，合計11回開催された。

表３　平成29年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2017年4月6日	⑴年間予定 ⑵役割分担
2	2017年5月11日	⑴女子学生寮防災訓練 ⑵奨学金採用状況 ⑶学生役割分担 ⑷キャリア支援関係
3	2017年6月1日	⑴女子学生寮防災訓練 ⑵学生支援機構奨学金
4	2017年7月6日	⑴学部校舎防災訓練 ⑵学生寮防災訓練報告 ⑶キャリア支援関係 ⑷就職の学内推薦 ⑸学生の交通事故
5	2017年9月7日	⑴学部校舎防災訓練 ⑵駐車場申請許可 ⑶キャリア支援関係
6	2017年10月5日	⑴キャリアガイダンス ⑵進路決定届提出状況
7	2017年11月2日	⑴学部校舎防災訓練報告 ⑵奨学金関連オリエンテーションと返還説明会 ⑶キャリアガイダンス
8	2017年12月7日	⑴学長賞選考委員検討 ⑵キャリアガイダンス ⑶インターンシップでのWill適用 ⑷次年度行事日程調整 ⑸女子学生寮門限違反
9	2018年1月4日	⑴卒業式送辞担当学生選定 ⑵「将来のキャリアを考える会」計画 ⑶学部および学生支援機構奨学金説明会報告 ⑷次年度学部校舎防災訓練日程 ⑸学生の未成年飲酒
10	2018年2月1日	⑴学長賞選考 ⑵卒業式総代など担当学生について ⑶日本私立看護系大学協会会長賞推薦について ⑷将来のキャリアを考える会プログラム
11	2018年3月1日	⑴平成30年度女子学生寮防災訓練日程 ⑵学部および学生支援機構奨学金 ⑶平成29年度キャリア支援プログラム実施計画案およびキャリアを考える会報告

FD評価実施委員会

委員長　本田　芳香

1．所轄事項

本委員会の所管事項は、以下の6点である。

1．授業内容及び方法の評価に関する事項
2．教員の資質開発に関する事項
3．教員研修会の企画・実施に関する事項
4．教育内容等の改善のための組織的取り組むに関する事項
5．編集に関する事項
6．その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表１に示すとおりである。

表１　構成員と役割

氏　名	役　割
本田芳香教授	委員長　FD報告書担当
中村美鈴教授	副委員長　FD研究会担当
塚本友栄准教授	FD評価票担当，授業評価実施施マニュアル担当
浜端賢次准教授	FD評価票担当，FD研究会担当
田村敦子講師	FD研究会担当，FD報告書担当
関山友子講師	FD評価票担当

3．活動内容

本委員会は，今年度は表2に示すとおり7回の委員会を開催した。平成29年度FD研究会（2回），FDマップ活用によるFD自己評価，授業評価マニュアル，FD報告書作成について検討をおこなった。

表２　委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2017年4月13日	年間運営方針，年間計画，役割分担
2	2017年5月18日	FD研究会，FD評価票，授業評価マニュアル
3	2017年7月20日	第1回FD研究会，FD評価票，授業評価マニュアル
4	2017年9月14日	第1回FD研究会
5	2017年11月2日	第2回FD研究会，科目責任者による授業評価票
6	2017年12月14日	第2回FD研究会，FDマップ活用に関する改善
7	2018年3月12日	第2回FD研究会評価，FD自己評価票に関する評価，授業評価マニュアルに関する評価，FD報告書

4．活動評価

FD研究会は，2回開催した。経験型実習教育をテーマに取り上げ，学生の学習の積み重ねの視点から，教育力向上のための具体的な経験型実習教育の方法と組織的活動の仕組みづくりを教示いただいた。FD評価票に関する事項では，教育力・研究力向上に向けたFDマップ活用上の課題に関するアンケート調査を実施したが，概ね有効に活用されていたと評価できる。授業評価マニュアルに関する事項では，「科目責任者による総合評価報告書」の一部見直しを行い，次年度はその評価を行う予定である。FD研究会報告書は年度内刊行を行った。

研究推進委員会

委員長　小原　　泉

1．所轄事項

本委員会の所管事項は，①看護職等との共同研究費に関する事項，②研究活動評価に関する事項，③研究活動の充実・活性化に関する事項，である。

2．委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
小原　泉　教授	委員長，研究補助者（間接経費雇用）の業務管理
野々山典子　教授	副委員長，間接経費応募とりまとめ，看護学部共同研究費担当者の補助
鈴木久美子　准教授	看護学部共同研究費担当
川上　勝　准教授	教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当，研究補助者（間接経費雇用）の業務管理
清水みどり　講師	競争的研究費獲得支援担当，教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当
長谷川直人　講師	競争的研究費獲得支援担当，間接経費応募とりまとめ担当者の補助

3．活動内容

本年度の委員会開催と審議事項を表2に示す。

看護学部共同研究費は最終的に計18件に配当した。教育・研究関連施設への研究支援は，芳賀赤十字病院新規研究7件，さいたま医療センター新規研究6件，附属病院およびさいたま医療センターの研究指導担当者への講義に対応した。競争的研究費獲得支援としては，9月14日に看護学部教員研究ミーティングを開催し，23名（約53%）が参加した。看護学部八木街子講師，田村敦子講師および古島幸江助教より研究活動の紹介があり好評であった。文部科研費申請件数は12件（前年度比＋3件）であった。

表2　2017年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2017年 4月13日	1．平成29年度委員会の開催日程・役割分担 2．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 3．平成29年度看護学部教員共同研究費の申請 4．平成29年度科学研究費助成事業の交付状況 5．平成29年度競争的資金（間接経費）雇用の研究補助者の業務
2	5月11日	1．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2．平成29年度看護学部共同研究費 3．平成29年度競争的研究費獲得支援 4．平成29年度競争的資金（間接経費）雇用の研究補助者の業務
3	6月8日	1．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2．平成29年度共同研究費 3．競争的研究費獲得支援（教員研究ミーティング）
4	7月13日	1．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2．競争的研究費獲得支援（教員研究ミーティング）
5	10月12日	1．競争的研究費獲得事業看護学部教員研究ミーティングの評価 2．共同研究費申し合わせ事項等の検討
6	12月14日	1．共同研究費申し合わせ事項等の検討 2．教育・研究関連施設からの研究支援依頼（申し合わせ事項等）の検討
7	2018年 2月8日	1．共同研究費 2．教育・研究関連施設からの研究支援依頼（申し合わせ事項等）の検討 3．平成30年度競争的資金間接経費への応募について
8	3月8日	1．教育・研究関連施設からの研究支援依頼（看護研究支援申込書等）の検討 2．平成30年度競争的資金間接経費への応募について 3．平成29年度共同研究費の支出関係書類提出期限後の対応

広報委員会

委員長　半澤　節子

1．所管事項

本委員会の所管事項は，①広報誌，パンフレットなどの作成および発行に関する事項，②ホームページの作成および管理に関する事項，③オープンキャンパスの実施に関する事項，④その他学部長が必要と認めた事項として，進学説明会や模擬授業，体験学習（南河内第二中学校），進路担当教諭のための看護学部進学説明会，看護学部DVD作成などへの対応である。

2．委員会の構成

本委員会の構成員は6名であり，表1に示すような役割分担を行った。なお，オープンキャンパスはすべての委員によって行い，表2に示すような役割分担を行った。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
半澤　節子　教授	委員長
塚本　友栄　教授	副委員長
佐藤　幹代　准教授	パンフレット担当
里光やよい　准教授	パンフレット担当 中学校体験学習
平尾　温司　准教授	広報誌担当 中学校体験学習
望月　明見　講師	広報誌担当 パンフレット担当

表2　下部組織（オープンキャンパスの役割分担）

担当者氏名	役　　割
半澤　節子　教授	統括
塚本　友栄　教授	副統括
佐藤　幹代　准教授	学生寮見学
里光やよい　准教授	模擬授業，学生広場
平尾　温司　准教授	バス乗車誘導
望月　明見　講師	学部施設見学

3．活動内容

広報誌「ビタミンN」，パンフレット「Campus Guide 2019」の作成・発行については，例年同様に予定通り発行した。広報誌「ビタミンN」は学生や保護者のニーズに合った情報を提供できるよう，写真などを多く掲載した。また，パンフレット「Campus Guide 2019」は，受験生や保護者，高校の進学担当教諭にとって読みやすいものとなるようページ立てを見直した。

ホームページについては，大規模な改訂が大学全体で平成30年度予定されているため，必要な部分のみの変更を行った。

オープンキャンパスについては，すべての委員とその他の教職員，学生アルバイトの協力によって，5月，7月，8月の計3回実施し，来校者の人数は，5月は169名，7月は476名，8月は544名と合計1189名の来校者に達した。

進学相談会・進学説明会・模擬授業への対応については，学部内の教員，看護学務課の職員の協力により，例年通り実施することができた。

体験学習（南河内第二中学校）は5月19日と23日の2日間の日程で行われ，担当の平尾准教授，里光准教授のリーダーシップのもと看護学部4年次生の協力を得て，中学1年生97名を迎えて体験学習を行った。

進路担当教諭のための看護学部進学説明会は，5月のオープンキャンパスの午前に行われ，前年度より若干多い，推薦指定校を含む27校の教諭27名の参加が得られた。

看護学部DVD作成については，委員長及び副委員長と看護学務課が中心となり，業者との調整，シナリオなどの検討，出演者の調整，撮影の準備，校正作業などを行い，予定通り4月末にホームページ上にアップすることができた。

表3　平成29年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月13日	①平成29年度広報委員会の活動内容と役割分担 ②第1回オープンキャンパスについて ③進路指導担当教諭への進学説明会等 ④下野市立南河内第二中学校の体験学習について ⑤パンフレットの評価 ⑥パンフレットおよびDVD制作業者の選定について
2	5月11日	①下野市立南河内第二中学校の体験学習の最終確認 ②第1回オープンキャンパスの最終確認 ③進路指導担当教諭のための進学説明会について ④パンフレットの作成について ⑤新入生対象の本学志願動機アンケートの結果について
3	6月8日	①進路指導担当教員のための進学説明会の実施結果と評価 ②第1回オープンキャンパス実施結果と評価 ③第2回および第3回のオープンキャンパスの実施計画 ④パンフレットの作成について
4	7月13日	①第2回および第3回オープンキャンパスの最終確認 ②パンフレットの作成について
5	9月14日	①第2回および第3回オープンキャンパス実施結果と評価 ②パンフレットの構成 ③看護学部案内DVD作成について
6	11月9日	①広報誌「ビタミンN」の企画・編集方針案について ②パンフレットの構成について ③次年度のオープンキャンパスの日程について
7	12月15日	次年度のオープンキャンパス企画概要（ホームページ掲載分）について
8	1月11日	看護学部紹介DVD作成について
9	2月8日	①本年度の広報活動の評価について ②次年度のオープンキャンパスの企画概要について ③新入生対象の本学志願動機アンケートについて
10	3月8日	進路指導担当教諭のための進学説明会について

編集委員会

委員長　村上　礼子

1．所轄事項

本委員会の所管事項は，自治医科大学看護学ジャーナルおよび自治医科大学看護学部年報，自治医科大学大学院看護学研究科年報の刊行に関する事項，その他学部長が必要と認めた事項である。

2．委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表１に示す通りである。

表1　構成員と役割

役　割	氏　名
委員長	村上礼子教授
副委員長	宮林幸江教授
年報の編集・刊行担当	宮林幸江教授 八木街子講師
看護学ジャーナル担当	村上礼子教授 小原　泉教授 角川志穂准教授 鹿野浩子講師

3．活動内容

本委員会は，今年度は表2に示す通り3回の委員会を開催し，看護学ジャーナル投稿規定の一部改訂，投稿論文チェックリストの確認，看護学ジャーナル論文審査規定の一部改訂，平成29年度年報の編集内容などについて検討をおこなった。

表2　委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2017年 4月18日	年間方針，年間計画，役割分担 投稿規定，看護学ジャーナル論文審査規定の検討，年報の規定，編集内容の検討
2	10月11日	看護学ジャーナル第15巻投稿論文の査読者及び編集委員の決定
3	2018年 2月16日	看護学ジャーナル第15巻掲載論文の採否と原稿種類の決定と第16巻投稿論文の査読者および編集委員 次号年報の目次検討

自治医科大学看護学部年報（第15号）は，自治医科大学大学院看護学研究科年報（第11号）とあわせて発行した。

自治医科大学看護学ジャーナル（第15巻）は，論文2編にて刊行した。投稿論文は計2編あり，1編につき1名の担当編集委員を選定，2名の査読者が論文内容の査読にあたった。

さらにより質の高い看護学ジャーナルの投稿を目指し，看護学ジャーナル投稿規程の一部見直しをおこなった。

また，年報の執筆要領を見直し，一部改訂をおこなった。

なお，自治医科大学看護学部年報（第15号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第11号）は，国立国会図書館をはじめ，政府関係機関，学外の実習関連施設，全国の看護系大学，栃木県関係，県内の看護系学校，総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長　野々山未希子

1．所管事項

本委員会の所管事項は，保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように，学習環境を整え，学習相談などの支援を行うことである。

2．委員会の構成

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
野々山　未希子　教授	委員長
北　田　志　郎　准教授	副委員長
浜　端　賢　次　准教授	委　員
島　田　裕　子　講師	委　員
田　村　敦　子　講師	委　員
藤　巻　郁　朗　講師	委　員

表2　下部組織（ワーキンググループ）

氏　名	役　割
石　井　慎一郎　講師	ワーキング委員
関　山　友　子　講師	ワーキング委員
古　島　幸　江　助教	ワーキング委員
湯　山　美　杉　助教	ワーキング委員
青　木　さぎ里　助教	ワーキング委員

3．活動内容

本年度は，計11回の委員会を開催した（表3）。委員会活動としては，国家試験受験に向けてのガイダンスを4年生に2回，3年生に1回実施した。次に，国家試験対策のための模擬試験を保健師は2回，助産師は3回，看護師は4回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて，学生の個別面接・指導およびグループ指導を実施した。学生指導は，学生を5グループに分け，それぞれのグループを委員1名とワーキンググループの構成員1名がペアを組んで担当し，学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また，国家試験出題科目を担当する各領域で2017年9月および2017年11月から2018年1月にかけて国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備としては，学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに受験参考書や問題集，業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き，学生が自由に閲覧できるようにした。

2017年度の新卒学税の国家試験の結果は表4に示すとおりである。本学の看護師・助産師国家試験の合格率は全国平均を上回っており，今後も引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3　2017年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2017年 4月13日	⑴年間スケジュール ⑵4年生に対する国家試験対策ガイダンスの報告 ⑶模擬試験日程および担当者の決定 ⑷国家試験対策ゼミ及び国家試験出題基準改定 ⑸低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果 ⑹担当学生の個別面接の実施計画 ⑺国家試験対策模擬試験マニュアル
2	2017年 5月11日	⑴模擬試験日程および担当者 ⑵国家試験対策模擬試験マニュアル ⑶担当学生の個別面接の経過（結果）の報告
3	2017年 6月8日	⑴第1回看護師模擬試験の受験状況の報告 ⑵担当学生の近況報告 ⑶低学年模試送付（返却）の報告
4	2017年 7月13日	⑴第1回看護師模擬試験の結果報告 ⑵国家試験受験説明会プログラム ⑶担当学生の近況報告
5	2017年 9月14日	⑴第1回助産師模擬試験の結果報告 ⑵国家試験の施行（官報） ⑶後期模擬試験日程・担当者等の再確認 ⑷担当学生の近況報告
6	2017年 10月12日	⑴必修模擬試験及び第2回看護師模擬試験の受験状況の報告 ⑵必修模擬試験の結果報告 ⑶国家試験対策ゼミ日程調整担当者決定 ⑷担当学生の近況報告
7	2017年 11月9日	⑴第1回保健師模擬試験及び第2回助産師模擬試験の受験状況の報告 ⑵必修模擬試験及び第２回看護師模擬試験の結果の報告 ⑶国家試験出願手続説明会等の開催 ⑷3年生に対する国家試験ガイダンス ⑸国家試験対策ゼミ日程調整状況 ⑹担当学生の近況報告
8	2017年 12月14日	⑴第1回保健師模擬試験及び第2回助産師模擬試験の結果の報告 ⑵2月国家試験受験説明会の開催 ⑶国家試験対策ゼミ実施状況 ⑷第3回看護師模試（12月）及び第2回保健師模試（1月）の担当者，第3回助産師模試日程の確認 ⑸担当学生の近況報告

9	2018年 1月11日	⑴第3回看護師模擬試験，第2回保健師模擬試験及び第3回助産師模擬試験の受験状況の報告 ⑵国家試験対策ゼミ実施状況 ⑶担当学生の近況報告
10	2018年 2月8日	⑴第3回看護師模擬試験，第2回保健師模擬試験及び第3回助産師模擬試験の結果報告 ⑵国家試験受験説明会 ⑶3年生への「低学年から始める看護師国家試験予想問題集」配布 ⑷次年度4年生配布「国家試験対策のための書籍」 ⑸次年度看護師国家家試験模試・保健師国家試験模試業者 ⑹担当学生の近況報告
11	2018年 3月26日	⑴国家試験の合格発表 ⑵看護師国家試験専門基礎模擬試験の受験状況・結果報告 ⑶次年度4年生に対する国家試験対策のオリエンテーション ⑷委員・WG教員の一部変更に伴う次年度国家試験対策委員会への引き継ぎ事項

表4　2017年度新卒学生の保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（全国）（%）
本学	看護師	102	101	99.0（96.3）
	保健師	102	76	74.5（85.6）
	助産師	7	7	100.0（99.4）

臨地実習指導研修委員会

委員長　中村　美鈴

1．所管事項

1．臨地実習指導研修会の開催に関する事項
2．臨地実習指導研修会のプログラムに関する事項
3．その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

構成委員は6名で，表1に示す通りである。

表1　構成員と役割

氏　名		役　割
中村　美鈴	教　授	委員長
宮林　幸江	教　授	副委員長
里光やよい	准教授	委　員
清水みどり	講　師	委　員
福田　順子	講　師	委　員
石井　慎一郎	講　師	委　員
安島　幸子	課　長	事務局
湯浅　芳恵	課長補佐	事務局
中村　里子	事務員	事務局

3．活動内容

平成29年度は，これまでの臨地実習指導研修会の開催に加え，臨地教員の実習教育の質的向上を目指して，臨地教員の研修会をFD委員会との共催で行った。

＜臨地実習指導研修会の開催＞

【目的】

自治医科大学における看護学部教育の理念に基づいて，臨地の場における看護学実習をより効果的に行うことを目的とする。

【目標】

1）本看護学部の教育理念に基づいた看護学実習の目的および目標を理解する。
2）臨地実習指導の基本を理解する。
3）看護実践の場における教育支援方法の実際を学ぶ。

【日程】

第1日目　平成29年9月5日（火）9：00-16：00
第2日目　平成29年9月6日（水）9：00-16：00

【参加者数】50名　【会場】学習室

【前年度実施からの変更事項と次年度に向けての課題】

・受講対象者は，クリニカルラダーⅢ修了生以上と変更となったため，受講対象者の状況を踏まえ，研修会の事例を改定した。アンケートの結果から肯定的な意見が多く，研修会は好評だった。29年度は，教員と臨床指導者の立場からの登壇後，討議内容が深まるよう，交流集会を設けた企画が好評であった。

表2　平成29年度臨地実習指導研修委員会日程および審議事項

会議日程	検討事項	備考
4月21日（金曜日） 10：30－11：30 第1回委員会	1．所轄事項および開催日程 2．研修会の役割分担 司会進行，担当講師との調整，事例調整，ブループワーク担当，アンケート作成と集計，設営，役割分担 3．新規研修会方向性の検討 1）受講対象者 2）プログラムの概要 3）適宜，講師の検討	日時のみは，早目に看護部へ周知
5月25日（木曜日） 16：30－17：30 第2回委員会	1．定例研修会の具体的検討 1）プログラムの確認 2）マニュアルの検討・確認 2．新規研修会の具体的検討・決定	
6月	1．研修会の周知 2．講師の依頼	6月　師長会へ周知　HP掲載開始 案内文書発送
7月18日（火曜日） 16：30－17：30 第3回委員会	1．研修会配布資料の準備 2．研修会申し込み状況確認 3．プログラム確認 4．当日役割分担確認 5．参加申し込み状況報告 6．テキスト校正作業の報告	8月初旬　資料提出の締切 8月中旬　原稿入稿 8月下旬テキスト納入 演習グループ決定 配布資料等確認 PDFファイル提出確認 8月26日（金曜日） 申込み締切
9月4日（月曜日） 15：00－16：00	研修会準備	会場設営，試写，演習使用物品の確認，配布資料の準備など）
9月5日（火）・6日（水）	**研修会当日**	
10月19日（木曜日） 16：30－17：30 第4回委員会	1．参加人数 2．アンケート集計結果報告 3．担当者のふりかえり	
1月18日（木曜日） 16：30－17：30 第6回委員会	1．プログラムの修正 2．マニュアルの修正 3．講師選定案の検討	

入試実施委員会

委員長　横山　由美

1．所管事項

入学試験実施に関する事項であり，具体的には入試実施日の役割分担・実施手順に関すること，入試実施説明会に関することである。

2．委員会の構成

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
横山　由美　教　授	委員長
成田　伸　教　授	副委員長
川上　勝　准教授	委　員
佐藤　幹代　准教授	委　員
飯塚　由美子　講　師	委　員
島田　裕子　講　師	委　員
安島　幸子　課　長	事務局
湯浅　芳恵　補　佐	事務局

3．活動内容

本年度は，4回の委員会を開催した。

第1回の委員会では，構成員および所管事項，入学試験の日程，一般入学試験準備について確認を行った。また，一般選抜入学試験入学願書「受験生の皆さんへ」について審議・検討を行い改訂・作成した。

第2回の委員会では，推薦入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。作成したマニュアルを用いて2017年11月9日（木）に入試実施説明会を開催し，推薦入学試験を11月18日（土）に実施した。

第3回の委員会では，一般入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。2018年1月19日（金）に作成したマニュアルを用いて入試実施説明会を開催し，一般入学試験（一次試験）を1月27日（土）に，一般入学試験（二次試験）を2月10日（土）に実施した。

第4回の委員会では，平成30年度一般選抜入学試験（一次試験）において入試実施上の不具合が生じたことから，当該年度中に平成32年度入学試験に向けて，一般入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。

表2　2017年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2017年4月27日	1．入試実施委員会の委員等の構成について 2．入試実施委員会の所管事項について 3．平成30年度看護学部入学試験関係の日程について 4．一般選抜入学試験準備について 5．一般選抜入学試験入学願書「受験生の皆さんへ」について
2	2017年10月26日	1．平成30年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2018年1月9日	1．平成30年度一般選抜入学試験実施マニュアル等について
4	2018年3月14日	1．入学試験実施マニュアル等の見直し

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長　春山　早苗

1．所管事項

⑴学則の制定及び改廃に関する事項
⑵研究科の教育課程に関する事項
⑶入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
⑷試験に関する事項
⑸学位論文審査に関する事項
⑹その他研究科の学事に関する重要事項

2．委員会の構成

⑴「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
春山　早苗	委員長（研究科長）※
成田　伸	委　員（幹事長）
大塚　公一郎	委　員
小原　泉	委　員
塚本　友栄	委　員
永井　優子	委　員
中村　美鈴	委　員
野々山未希子	委　員
半澤　節子	委　員
本田　芳香	委　員　※※
宮林　幸江	委　員
村上　礼子	委　員
横山　由美	委　員　※※※

※地域看護管理学分野主任兼ねる
※※広域実践看護学分野主任兼ねる
※※※実践看護学分野主任兼ねる

3．活動内容

⑴「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2　2017年度の審議事項

回	開催日	審議事項
①	4月20日	・平成29年度大学院看護学研究科長期履修制度申請について
2	5月11日	・平成30年度看護学研究科出願資格認定試験，入学試験の実施要領（案）及び役割分担について ・平成29年度看護学研究科予算要求案について ・平成29年度大学院カリキュラム検討会について ・9月修了を前提とした学位論文審査スケジュールについて ・平成30年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項について ・平成29年度看護学研究科教員任用審査について ・平成29年度看護学研究科非常勤講師任用について ・博士前期課程のティーチング・アシスタント任用手続きについて ・看護実践研究論のシラバスについて
3	6月20日	・休学について
4	7月6日	・平成30年度看護学研究科予算要求について
5	8月31日	・平成30年度看護学研究科博士前期課程出願資格認定試験合否判定について ・平成30年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアルについて ・看護学研究科英語科目の開講について
6	9月21日	・平成29年度看護学研究科科目等履修生単位取得(博士前期・後期課程)認定について ・博士後期課程研究費申請について ・履修計画の変更について ・職業実践力育成プログラム申請について
7	10月5日	平成30年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について ・平成29年度第3回合同研究セミナーについて ・平成29年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について
8	12月1日	・平成29年度看護学研究科論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）実施方法について ・平成29年度看護学研究科論文審査実施要領について ・平成30年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験実施マニュアルについて ・領域名の変更について ・履修規程の変更について ・学位申請要領の修正について ・研究計画審査について

9	12月18日	・平成29年度看護学研究科論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について
10	1月5日	・平成29年度博士後期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・平成30年度看護学研究科学年暦について ・平成30年度看護学研究科博士後期課程研究計画審査会日程について ・平成30年度看護学研究科博士前期課程研究計画支援委員会日程について ・平成30年度大学院要綱について ・大学院看護学研究科教員任用審査について ・平成30年度科目責任者について ・平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用について ・領域名の変更について
11	2月1日	・平成29年度大学院看護学研究科論文審査（口頭試問）の結果について ・平成29年度学位論文発表会（最終試験）スケジュールについて ・平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用について ・平成30年度科目等履修生（博士前期課程）の決定について ・平成30年度看護学研究科入学試験日程について ・平成30年度看護学研究科科目等履修生の募集日程について ・平成29年度大学院看護学研究科博士後期課程研究計画審査会の担当者の決定について ・大学院看護学研究科委員会幹事会運営規程及び専門委員会設置規程の改正について ・博士後期課程研究費について
12	2月13日	・平成29年度看護学研究科博士・修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定について
13	2月15日	・平成30年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験合否判定について
14	3月1日	・平成29年度看護学研究科修得単位の認定について ・平成29年度看護学研究科修了判定について ・平成29年度看護学研究科科目等履修生の単位修得（後期履修）について ・平成30年度科目責任者について ・平成30年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて ・平成30年度看護学研究科委員会議事日程について ・平成30年度科目等履修生（博士後期課程）決定について ・看護学研究科教員任用審査について ・平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用について
15	3月22日	・平成30年度看護学研究科教員任用審査について ・平成30年度看護学研究科非常勤講師任用審査について

（回数表示の〇囲みは持回り審議）

研究科委員会幹事会

幹事長　成田　　伸

1．所管事項

⑴自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
⑵自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
⑶その他，大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2．委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割を表1に示した。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
春山　早苗　教授	研究科長，地域看護管理学分野主任
成田　伸　　教授	幹事長，広報委員長
半澤　節子　教授	入試実施委員長
横山　由美　教授	FD評価実施委員長，実践看護学分野主任
本田　芳香　教授	カリキュラム委員長，広域実践看護学分野主任

3．活動内容

平成29年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。平成29年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう，幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し，必要な検討事項について各委員会において審議を行い，幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ，審議した。

また，平成29年度は，これまで多くの専門看護師を育成してきた実績を踏まえ，看護学研究科実践看護学分野の専門看護師をめざす場合の履修（小児看護学，母性看護学，クリティカルケア看護学，精神看護学，がん看護学）について，文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）の申請を行った。職業実践力育成プログラムとは，大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として，大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものである。各領域の協力を得て準備を進め，平成29年10月6日付で申請，12月18日付で文部科学省からのメールで承認の通知，文科省のホームページ上での認定の掲載は12月26日付，平成30年1月9日付で官報に掲載された。本学ホームケージ上に3月30日付で掲載し，看護学研究科パンフレット等も通じて広報を行っている。

表2　平成29年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	平成29年4月25日	1．平成29年度看護学研究科履修科目（博士前期・博士後期）の決定 2．博士前期課程入学生の既修得単位の認定 3．9月修了を前提とした学位論文審査スケジュール 4．平成30年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項 5．平成29年度看護学研究科教員任用の審査 6．平成29年度看護学研究科非常勤講師の任用審査 7．博士前期課程のティーチングアシスタント任用手続き 8．博士後期課程研究費申請 9．平成29年度看護学研究科委員会幹事会の開催予定 10．平成29年度看護学研究科博士課程説明会 11．平成29年度特別講義・課外授業 12．看護実践研究論のシラバス 13．平成29年度看護学研究科オリエンテーションの評価
2	5月23日	1．職業実践力育成プログラム（BP）申請に係る準備 2．平成29年度科目等履修生追加募集 3．平成29年度看護学研究科博士後期課程研究費の追加募集 4．平成29年度看護学研究科課外授業
3	6月20日	1．休学 2．平成30年度看護学研究科出願資格認定試験 3．平成30年度看護学研究科入学試験 4．看護学研究科博士課程奨学金申請者の選考 5．平成30年度看護学研究科予算要求 6．平成30年度看護学研究科英語科目開講 7．看護実践研究論のシラバス
4	7月25日	1．平成30年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアルについて 2．看護実践研究論のシラバス 3．平成30年度看護学研究科英語科目の開講 4．看護学研究科博士後期課程研究費申請 5．看護学研究科パンフレット2019

4	7月25日	1．平成30年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアルについて 2．看護実践研究論のシラバス 3．平成30年度看護学研究科英語科目の開講 4．看護学研究科博士後期課程研究費申請 5．看護学研究科パンフレット2019
5	9月19日	1．平成29年度看護学研究科科目等履修生単位修得（博士前期・博士後期）認定 2．平成29年度第3回合同研究セミナー 3．看護実践研究論のシラバス 4．看護学研究科博士後期課程研究費申請 5．履修計画の変更 6．看護学研究科ホームページ改修 7．職業実践力育成プログラム（BP）申請
6	10月24日	1．看護学研究科パンフレット2019の構成案 2．平成30年度看護学研究科時間割 3．看護学研究科博士後期課程研究費申請
7	11月21日	1．平成29年度看護学研究科論文審査（口頭試問）および最終試験（発表会）実施方法 2．平成29年度看護学研究科（博士前期・博士後期）論文審査実施要領 3．平成30年度看護学研究科（博士後期）入学試験実施マニュアル 4．看護学研究科（博士前期）履修規程の変更 5．看護学研究科（博士前期）修了後の看護実践能力に関する自己評価 6．看護学研究科学位申請要領の修正 7．看護技術開発学の領域名称の変更
8	12月19日	1．平成30年度看護学研究科研究計画審査会（博士後期）の日程 2．平成30年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期）の日程 3．平成31年度看護学研究科入学試験の日程 4．平成31年度看護学研究科科目等履修生の募集日程 5．平成30年度看護学研究科学年暦 6．平成30年度看護学研究科要綱 7．平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用 8．看護学研究科教員任用資格審査 9．証明書等発行費用の徴収 10．看護学研究科委員会幹事会運営規程および専門委員会設置規程の改正 11．平成30年度科目等履修生の募集 12．領域名の変更 13．看護学研究科博士後期課程研究費の申請
9	平成30年1月23日	1．看護学研究科教員の任用および担当授業科目の追加申請 2．平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用 3．看護学研究科委員会幹事会運営規程および専門委員会設置規程の改正 4．平成29年度課外授業（博士前期）アンケート調査 5．看護学研究科博士後期課程研究費の取り扱い
10	2月20日	1．平成30年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーション 2．平成30年度看護学研究科非常勤講師任用の審査 3．看護学研究科教員任用の審査 4．平成30年度看護学研究科要綱
11	3月20日	1．平成30年度看護学研究科教員任用の審査 2．平成30年度看護学研究科非常勤講師の任用 3．平成30年度合同研究セミナー 4．平成29年度課外授業の評価 5．平成28年度看護学研究科（博士前期）修了（1年後の看護実践能力の関する自己評価 6．平成29年度看護学研究科（博士前期）修了時の看護実践能力に関する自己評価の結果 7．平成30年度幹事会審議事項 8．職業実践力育成プログラム（BP）のホームページ掲載

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授　大塚　公一郎

１．スタッフの紹介

教　授　大塚公一郎
准教授　北田　志郎（2018年3月31日退職）
准教授　平尾　温司
講　師　関山　友子
講　師　鹿野　浩子（2017年4月1日就任）

取得資格：中学校．高等学校教諭専修免許（英語）TESOL
学歴：修士（文学）日本女子大学文学研究科英文学専攻博士後期課程（満期退学）
職歴：大正大学人間環境学科・表現文化学科（非常勤講師）　川村学園女子大学国際英語学科（非常勤講師）　新渡戸文化短期大学臨床検査学科・生活学科（非常勤講師）

２．教育の概要

１）看護基礎科学に関する教育概要

⑴心理学（2年次前学期2単位：必修）
科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

⑵人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）
科目責任者である大塚が5時間，高村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑶文化人類学入門（1・4年次後学期2単位：選択）
科目分担者である山越英嗣非常勤講師（早稲田大学教員）が8時間，科目責任者である大塚が7時間を担当して講義を行った。

⑷情報学（1年次後学期2単位：必修）
科目責任者である関山が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑸統計学（2年次前学期1単位：必修）
科目責任者である関山が15時間を担当して講義を行った。

⑹統計学演習（2年次後学期1単位：必修）
科目責任者である関山が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑺疫学（4年次前学期2単位：必修）
科目責任者である関山が30時間を担当して講義を行った。

⑻病態学概論（1年次後学期2単位：必修）
科目責任者である北田が28時間，菱川修司非常勤講師（本学医学部准教授）が2時間を担当して講義を行った。

⑼病態学各論（2年次前学期2単位：必修）
科目責任者である北田が28時間，菱川修司非常勤講師（本学医学部准教授）が2時間を担当して講義を行った。

⑽臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）
科目責任者である北田が7時間，紺野　啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間，松浦克彦非常勤講師（本学さいたま医療センター）が2時間，出井　充非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

⑾人体科学の基礎（1・2年次前学期1単位：選択）科目責任者である北田が15時間を担当し講義を行った。

⑿基礎英語（1・2年次前学期1単位：選択）
科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⒀医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）
科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⒁人体の構造と機能㈵（1年次前学期2単位：必修）平尾が28時間，野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が2時間を担当して講義を行った。加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が4時間を担当して講義を行った。

⒂人体の構造と機能㈼（1年次後学期2単位：必修）平尾が28時間，野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が4時間を担当して実習を行った。加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が4時間を担当して講義および実習を行った。

⒃免疫学（1年次後学期2単位：必修）滝龍雄非常勤講師（北里大学准教授）が18時間，平尾が12時間を担当し講義を行った。

⒄環境学（１・2年次前学期1単位：選択）科目責任者の平尾，大塚・北田がそれぞれ5時間を担当して講義を行った。

⒅医療とバイオテクノロジー（１・2年次前学期1単位：選択）科目責任者である平尾が15時間を担当して講義を行った。

２）看護基礎科学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）

大塚，北田,平尾は，それぞれ30時間の演習を担当した。
⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）
関山，鹿野はそれぞれ2時間の講義を，関山，鹿野はそれぞれ10時間の演習を担当した。
⑶研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）
関山は，2時間の講義を担当した。
⑷へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）
北田は，2時間の講義と6時間の実習を担当した。
⑸対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）
大塚，北田，平尾，関山，鹿野は，それぞれ8時間の実習を担当した。
⑹公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）
大塚，北田は，それぞれ6時間の実習を担当した。平尾，関山，鹿野は，それぞれ12時間の実習を担当した。
⑺看護トピックス（4年次前学期2単位：必修）
平尾が宇都宮大学農学部附属農場で6時間の実習，北田が2時間の講義を行った。
⑻大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。
⑼大塚は，本学医学部4年生を対象に，精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。
⑽平尾は，本学医学部2年生を対象に，96時間の解剖学実習を担当した。
⑾平尾は，本学医学部2年生を対象に，12時間の神経解剖学実習を担当した。

３．研究の概要

⑴統合失調症の精神病理学的研究
大塚は，統合失調症患者の言語行為と自我障害，加害妄想との関係について精神病理学的研究を行った。
⑵覚醒夢の精神病理学的研究
大塚は，日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）による研究課題「明晰夢の現象学」（研究代表者：本学医学部総合教育部門　武内大）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。
⑶日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援
大塚は，日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）による研究課題「地域で暮らす精神障害者の被災体験をふまえたレジリエントコミュニティ形成支援法開発」（研究代表者：野﨑章子　千葉大学）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。
⑷地域医療における精神医療ニーズの研究
北田は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究C）による研究課題，「地域医療における精神医療ニーズの明確化と効果的な介入手段の探索」（研究代表者：須田史朗）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
⑸在日コリアンに対する差別とメンタルヘルスについての研究
北田は，「在日コリアンに対する差別がメンタルヘルスに与える影響についての社会学的研究および疫学研究」を代表者として実施した。研究分担者は京都大学松本卓也，一橋大学梁英聖，鄭康烈であった。
⑹大学生の対人関係と健康の研究
北田は，「大学生の対人関係と健康の研究」（研究代表者：東北大学相田潤）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。
⑺ブタ腹骨盤腔内臓を用いたプラストミック標本の作製と特定行為研修への応用に関する研究平尾は看護学部共同研究費「ブタ腹骨盤腔内臓を用いたプラストミック標本の作製と特定行為研修への応用に関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員川上，田村，福田，連携研究者は本学医学部教員黒川真輔，附属病院田口深雪であった。
⑻尾腺における主要組織適合抗原複合体分子の発現の研究
平尾は「尾腺における主要組織適合抗原複合体分子の発現」の研究を代表者として実施した。
⑼本学部共同研究費「へき地における多職種連携に携わる専門職の共有意思決定支援への認識と取り組み」
関山は，看護学部共同研究費「へき地における多職種連携に携わる専門職の共有意思決定支援への認識と取り組み」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は本学部教員江角，湯山，六合温泉医療センターの山田明美であった。
⑽精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究
関山は，平成28-31年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体

制の整備に関する研究」（研究代表者：国際医療福祉大学　小池純子）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。

⑾人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント

関山は，平成29-31年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント」（研究代表者：自治医科大学　春山早苗）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。

⑿看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究

関山は，平成29年度厚生労働行政推進調査事業（厚生労働科学特別研究事業）による研究課題「看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究」の研究協力者として参加し，同研究を実施した。

⒀看護基礎教育課程から看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた基礎的研究

関山は，平成29年度看護学部共同研究費による研究課題「看護基礎教育課程から看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた基礎的研究」（研究代表者：自治医科大学　湯山美杉）の共同研究者として参加し，同研究を実施した。

４．その他

⑴大塚は，平成21年1月より多文化間精神医学会評議員，同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。

⑵大塚は，平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。

⑶大塚は，平成26年10月より日本精神医学史学会評議員を務めている。

⑷大塚は，非常勤講師として，栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。

⑸大塚は，日本ルーラルナーシング学会学会誌「ルーラルナーシング」の査読委員を務めた。

⑹北田は，平成22年9月より日本中医学会評議員を務めている。

⑺北田は，平成29年11月より多文化間精神医学会評議員を務めている。

⑻北田は，平成24年度より介護支援専門員実務研修受講試験委員を務めている。

⑼北田は，第19回日本在宅医学会の一般演題抄録の査読を行った。

⑽北田は，第7回日本中医学会の一般演題抄録の査読を行った。

⑾北田は，学外の大学院博士前期過程の学位論文1本の審査を行った。

⑿北田は，栃木県立栃木女子高等学校の出張講義を2時間担当した。

⒀平尾は宇都宮大学大学院農学研究科（修士課程）の外部アドバイザーを務めた。

⒁平尾は栃木県立鹿沼高等学校の模擬授業を1時間担当した。

⒂平尾は東京農工大学大学院連合農学研究科の大学院生を対象に研究指導を行った。

⒃関山は，栃木県地域保健福祉職員研修の講師を担当した。

⒄鹿野は平成29年度4月より社会科学言語学会企画委員を務めている。

基礎看護学

教授　本田　芳香

１．スタッフの紹介

教　授　本田　芳香
教　授　小原　　泉
准教授　里光やよい
講　師　福田　順子
　　飯塚由美子（2018年3月31日異動）
助　教　湯山　美杉
　　岡野　朋子（2018年3月31日退職）

２．教育の概要

基礎看護学科目群では，発達段階に合わせたすべての人を意識し，4年間で学ぶべく看護学の基礎を，また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

１）基礎看護学に関する教育概要

⑴看護学概論（１年次前学期2単位：必修）
担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の主な概念，看護理論，歴史的変遷，法律・倫理及び看護活動の場と保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能など，今後看護が目指す概要を教授する。

⑵実践看護学概論Ⅰ（１年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特にインタビュー技術及び観察技術をグループワークを導入しながら学生自身の日常生活と関連させながら教授した。

⑶看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（１年次前学期1単位・1単位必修）担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。

⑷看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位必修）担当：福田順子，他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。

⑸看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し，滅菌操作，採血等の検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義演習を行った。

⑹看護技術演習Ⅳ（２年次前学期1単位必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員，フィジカルアセスメント，看護過程の展開を教授し，学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

⑺対象の理解実習（1年次前学期1単位必修）
担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：附属病院の病棟・外来に来訪する対象の理解を人間・健康・環境・看護の視点から実習を通して学ぶ。

⑻日常生活援助実習（2年次後学期2単位必修）：
担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，附属病院で入院している患者を初めて受け持ち，日常生活に関わる援助を実習を通して学ぶ。

⑼その他：「がん看護学」は，小原が担当。「看護トピックス」は里光，「看護基礎セミナー」は，基礎看護学教員全員が担当した。「看護研究セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授，講師，助教全員（里光，福田，飯塚，湯山，岡野）が担当した。「総合実習・総合セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授，講師，助教全員（里光，福田，飯塚，湯山，岡野）が担当した。

３．研究の概要

１）研究プロジェクトの参加（研究代表者）

①本田は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)による研究課題「地域文化を基盤とする終末期がん患者の在宅看取りケアに関する多職種コーディネート機能」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員福田，飯塚，湯山，北田，本学医学部教員の藤井博文，高崎健康福祉大学の棚橋さつきであった。

②小原は，文部科学省化学研究費補助金（基盤研究(C)）による研究課題「臨床研究コーディネーターの熟達化を促進する現任教育」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，千葉大学大学院 野崎章子，京都大学大学院 笠井宏委，国立病院機構大阪医療センター 森下紀子，金沢大学　吉村健一であった。

③福田は，平成29年度自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「大学附属病院ジェネラリストナースの」研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田，小原，里光，附属病院　大柴幸子 上野久子　大海　佳子　渡辺芳江　亀田美智子　　小松崎香　　弘田　智香　朝野春美であった。

④湯山は，平成29年度看護学部教員共同研究費による研究課題，「看護基礎教育課程から看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた基礎的研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田芳香，福田順子，関山友子，附属病院看護部　亀田美智子，高久美子であった。

２）研究プロジェクトの参加（分担研究者）
①本田は，文部科学省　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発事業」テーマ１「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」（研究代表者：春山早苗）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。
②本田は，平成29年度自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「大学附属病院ジェネラリストナースの」（研究代表者：福田順子）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
③本田は，平成29年度看護学部教員共同研究費による研究課題，「看護基礎教育課程から看護専門職への移行期にある看護学部高学年生および新人看護師の看護実践能力向上に向けた基礎的研究」（研究代表者：湯山美杉）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
④福田は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
⑤湯山は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

３）研究業績録
⑴論文
①小原　泉：臨床研究コーディネーターが試験実施計画書の作成や審査にかかわる意義とその実際，薬理と臨床，45（9）1429-1432，2017.
⑵著書
①Izumi Kohara, Akiko Nosaki, Noriko Morishita, Nobuko Ushirozawa, Kazushi Endo, Hiroshi Yamada, Takao Taniguchi, Hideo Kusuoka: Core Competencies of Clinical Research Coordinators, International Journal of Bio-Science and Bio-Technology, 9（2）;1-10. 2017.
⑶学会発表
①Izumi Kohara, Shizuo Machida, Akiyo Taneichi,, Yoshie Watanabe, Yuji Takei,and Hiroyuki Fujiwara: Factors that influence enrollment of patients in gynecological cancer clinical trials, Oncology Nursing Society 42nd Annual Congress, Denver, USA, May 5, 2017.（ONCOLOGY NURSING FORUM, 44（2）;186, 2017）
②笠井宏委，後澤乃扶子，小原　泉，唐木範子，谷口 隆雄，野崎章子，森下典子，鶴丸雅子，吉村健一，遠藤一司，山本晴子，楠岡英雄：CRC配置の現状調査，日本臨床薬理学会，横浜，2017年12月8日.
③高津戸文江，小原泉，高橋清美，田口奈名絵，前田純子，前田由利子，山中都起子，寺谷工，大澤英之，北山丈二：臨床研究の実施における院内支援体制整備の現状と課題，CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2017 in 名古屋，名古屋，2017年9月2日～3日.
④里光やよい，村上礼子，八木街子，鈴木美津枝：特定行為研修を修了した看護師による気管カニューレの交換の実践.（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，鹿児島奄美．2017年11月24日．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；37，2017年）
⑤福田順子,本田芳香,湯山美杉：終末期がん患者の在宅看取りに関する多職種チームの複雑さの要因.日本看護科学学会,仙台,2017.12.17.（日本看護科学学会第37回学術集会　電子抄録集：O 55-3,2017）
⑥湯山美杉,本田芳香,小原泉,里光やよい,福田順子,飯塚由美子,岡野朋子：模擬患者導入による看護計画の実施場面からの学生の気づき．日本看護科学学会,仙台,2017.12.16.（日本看護科学学会第37回学術集会　電子抄録集：O 09-1,2017）
⑦中野真理子，佐々木政史，古島幸枝，中村美鈴，藤巻郁朗，本田芳香，春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム高齢者の急変時における看護実践演習の教育効果の検討.（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，鹿児島奄美.2017年11月24日．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集;42,2017年）
⑧古島幸枝，中村美鈴，中野真理子，佐々木政史，藤巻郁朗，本田芳香，春山早苗：e-learningを活

用した学習活動からみてへき地で生活する看護職に対する学習支援の検討.（(日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，鹿児島奄美．2017年11月24日．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集;45,2017年）

⑶その他

本田芳香：地域実践看護師のコンピテンシー―訪問調査の結果から―，2017年9月2日．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業　日本型地域ケア実践開発研究事業 成果報告会.

湯山美杉，本田芳香，小原泉，里光やよい，福田順子，飯塚由美子，中塚麻美，浜端賢次，野沢博子，亀田美智子，高久美子，安藤恵：対人関係スキル習得ための模擬患者導入による学習の有効性に関する研究（会議録），自治医科大学看護学ジャーナル14，44，2017.

地域看護学

教授　春山　早苗

1．スタッフの紹介

教　授　春山　早苗
教　授　塚本　友栄
准教授　鈴木久美子（2018年3月31日退職）
講　師　島田　裕子
助　教　青木さぎ里
助　教　江角　伸吾
助　教　土谷ちひろ（2017年4月1日就任）

資格：看護師，保健師.
学歴：保健学修士（神戸大学大学院保健学研究科国際保健学領域　国際開発分野）
職歴：看護師として，自治医科大学附属病院（内分泌代謝科）に2年間，岐阜県立多治見病院（救命救急センター）に2年間.青年海外協力隊として，ソロモン諸島に2年間，等.

2．教育の概要

1）地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要となる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修），健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修），行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修），地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。

2）地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：春山・鈴木・塚本・島田・青木・江角が担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：塚本・鈴木・青木・江角・土谷が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：鈴木が科目責任者，青木，江角，土谷も担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：島田が担当。⑤「研究セミナー」（3年次後学期1単位：必修）：塚本が科目責任者，塚本は講義・演習，春山は講義担当。⑥「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者，塚本・江角・土谷も担当。⑦老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が1クール担当。⑧「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑨「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で20名を担当。実習場所は下野市8名，群馬県吾妻郡中之条町六合地域45名，日光市足尾地域4名，県内訪問看護ステーション4名。⑩「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で学生20名を担当。春山2名，塚本3名，鈴木3名，島田3名，青木2名，江角3名，土谷2名の学生を指導。学生は，自閉症スペクトラム障害である児の母親に対する市町村保健師による支援方法，生活習慣病の重症化リスクの高い住民に対する効果的な保健指導，特定健診未受診である高齢者の受診促進要因と保健師の支援方法，在宅終末期療養者の配偶者の思いに沿った看護支援，中山間地域に住む独居後期高齢者の生活機能に影響している要因，中山間地域における独居後期高齢者の通所サービス利用への影響要因と支援方法，山間地域において子育てをする親への育児支援方法等の看護研究に取り組んだ。⑪「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，塚本が責任教員となり，精神看護学科目の教員と合同で2つのテーマを実施。1つは前学期に「認知症の人とその家族が安心して暮らせるために必要な看護職の役割」で，鈴木，青木，土谷が4名の学生を担当。もう1つは後学期に「退院支援・地域移行支援と多職種連携」で，塚本，春山，島田，江角が14名の学生を担当。⑫その他：鈴木・青木は担当者とともに，「へき地の生活と看護」履修者31名，研修者17名，計48名の夏季へき地研修を13カ所の施設において企画・実施した。江角，土谷は担当者とともに，履修者3名のブータン医科大学との交流プログラムを企画し，江角は学生を引率した。

3．研究の概要

1）本学部教員共同研究費「地域包括ケアシステムにおいて協働する住民発掘方略及び生活支援

コーディネーターの活動方法に関する研究」：鈴木が研究代表者となり，本学科目教員全員で下野市保健師及び生活支援コーディネーターとともに実施。春山・鈴木・青木・江角・土谷は調査結果報告会を下野市の５自治会で実施（参加者計87名）。

２）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）「人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント」：春山が研究代表者，鈴木・塚本・島田・青木・江角は研究分担者。

３）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）「県外に避難した者を対象とした避難所活動のための自治体保健師の活動指針の作成」：島田が研究代表者，鈴木・塚本は研究分担者，春山は連携研究者。

４）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究(B)）「離島町村で働く新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験」：青木が研究代表者。

５）本学部教員共同研究費「高齢化社会に対応する文化や習慣を踏まえた保健医療方略を検討するための基礎的調査－日本とブータン王国における高齢者の健康関連QOLおよび関連要因の比較から－」：春山が研究代表者，青木・江角・土谷は共同研究者。

６）厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究」（研究代表者：自治医科大学　学長　永井良三）：春山が研究分担者，江角は研究協力者。

７）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）「島しょ看護学の学習指導書作成に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学　名誉教授　野口美和子）：春山が研究分担者，青木は研究協力者。

８）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）「「保健活動の評価指標」の「政策統計の報告事項」への適用可能性の検討」（研究代表者：長崎県立大学　教授　平野かよ子）：春山が研究分担者。

９）厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究」（研究代表者：千葉大学大学院　教授　宮﨑美砂子）：春山が研究分担者。

10）厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「へき地医療において提供される医療サービスの向上とへき地医療に従事する医師の労働環境改善に係る研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門　教授　梶井英治）：春山，江角が研究協力者。

11）本学部教員共同研究費「日本およびブータンの看護学生の学習行動と生活に関する比較研究のためのツール開発」（研究代表者：自治医科大学看護学部　教授　小原泉）：春山，江角が共同研究者。

12）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）「認知症ケア初動期の集中支援システムが予防機能を発揮するためのマネジメント指針」（研究代表者：長野県看護大学　教授　安田貴恵子）：春山が連携研究者。

４．その他

１）JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「モンゴル国　思春期からの健康なライフスタイル構築のための持続可能な仕組みづくりプロジェクト～性感染症と不適切な妊娠を予防し，豊かな自己実現をめざして～」：江角が現地活動（2017.4.28～5.8，2017.9.11～9.25，2018.1.3～1.8，2018.3.14～3.23，ウランバートル），春山が現地活動（2017.9.11～9.16，ウランバートル）。

２）栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2017.6.9，12.6，参加者8名，宇都宮市）：春山は講師，青木は助言者。

３）春山，島田は日本地域看護学会第20回学術集会ワークショップ「大規模特殊災害における復興期の地域づくりにかかわる保健活動－災害支援のあり方検討委員会による福島県被災市町村の訪問調査から－」の企画・運営（2017.8.6，参加者42名，別府市）。

４）鈴木・江角は芳賀赤十字病院看護師8名の研究支援（研究課題8件）。

５）春山は日本ルーラルナーシング学会理事長，鈴木は評議員及び編集委員，青木・江角は事務局員。

６）春山は日本地域看護学会副理事長及び災害支援のあり方検討委員会委員長，倫理綱領作成ワーキンググループリーダー，島田は災害支援のあり方検討委員会委員。

７）栃木市健康増進計画推進部会及び庁内ワーキング合同会議：春山・江角はアドバイザー。
８）春山：①JICA「保健衛生管理セミナー」の講師「Nursing Education in Jichi Medical University」（2017.5.31，参加者13名，下野市）。②茨城県特定健康診査・特定保健指導実践者育成研修の講師「健診・保健指導の事業の評価」（2017.5.18，参加者112名，水戸市）③下野市健康推進員養成講座（2017.7.6，参加者9名；9.20，参加者9名），フォローアップ講座（2017.11.1，参加者20名）④平成29年度本学公開講座の講師「これからの在宅療養・在宅介護を支える地域包括ケアシステム」（2017.7.29，参加者約390名，下野市）⑤日本地域看護学会第20回学術集会20周年記念シンポジウム「地域看護学と社会実装；地域看護学の研究は実践の改革に役立っているのか」の座長及び同学術集会抄録の査読者⑥平成25年度～平成29年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」成果報告会のシンポジウム「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価－地域ケア実践看護師のコンピテンシーと医師との協働に焦点を当てて－」の座長（2017.9.2，173名，下野市）⑦地域医療フォーラム2017　第4分科会（地域医療・介護と連携）の座長（2017.9.17，参加者約65名，東京）⑧茨城県保険者協議会　平成29年度特定健康診査等実施計画・データヘルス計画策定支援研修の講師「PDCAサイクルを活用した保健事業の実施と評価について」（2017.10.4，参加者96名，水戸市），⑨2017年度JICAインドネシア青年研修「母子保健実施管理コース」の講師「日本における母子保健対策－住民との協働－」（2017.10.25，参加者13名，下野市）⑩静岡県「災害時健康支援コーディネーター養成研修会」の講師（2017.11.20，参加者42名，静岡市）⑪和歌山県「受援のための初動と統括保健師の役割～発災時における応援要請の意思決定と行動化に向けて～」のコメンテーター（2017.11.27，参加者50名，和歌山市）⑫第6回日本公衆衛生看護学会学術集会一般演題（示説）「親子保健・福祉⑩」の座長及び同学術集会抄録の査読者⑬栃木県　平成29年度健康度「見える化」事業研修会の講師「データを活用した保健事業の展開について」（2018.1.24，26名，宇都宮市）⑭日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員（2017.11.30まで）⑮厚生労働省　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業　事前評価委員⑯日本医療研究開発機構　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業のMedical Arts評価委員⑰日本医療研究開発機構「AIを活用した保健指導システム研究推進事業」の科学技術調査員⑱厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）⑲厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員⑳厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会」構成員及び看護職員需給分科会構成員㉑文部科学省　大学設置・学校法人審議会　大学設置分科会　専門委員㉒栃木県保健師現任教育のあり方検討会委員㉓下野市健康づくり推進協議会会長㉔下野市健康しもつけ21プラン策定委員会委員長㉕千葉看護学会第23回学術集会抄録の査読者㉖日本ルーラルナーシング学会誌査読委員㉗千葉看護学会会誌専任査読者㉘日本公衆衛生看護学会評議員及び学術実践開発委員，査読委員㉙日本地域看護学会誌査読委員㉚日本看護科学学会代議員㉛Public Health Nursing（Wiley online library）査読者
９）塚本：①栃木県補助事業「在宅医療地域連携体制構築委員会」による退院支援に関わる看護師の指導者研修（2017.7.3,9.8,12.19，各受講者50名，宇都宮市），同研修28年度修了者フォロアップ研修会（2018.1.31，受講者23名，宇都宮市）②栃木県看護協会　在宅医療地域連携体制構築委員会　退院支援検討部会　部会長③自治医科大学看護学ジャーナル査読者
10）鈴木：①栃木県県南健康福祉センター管内地域保健職員新任研修会「新任期職員が獲得すべき能力とは～キャリアラダーを見据えて～」の講師（2018.2.5，参加者28名，小山市）②下野市介護認定審査会委員③小山市地域包括支援センター運営協議会委員④小山市生活支援体制整備事業協議体委員⑤日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録の査読者
11）島田：①下野市介護認定審査会委員②下野市避難者交流会「ふくしまあじさい会」への健康支援活動（2017.8.10，参加者は約50名，下野市）
12）青木：①東京都島しょ町村保健活動サポーター②結城市介護認定審査会委員③島嶼研究の査読者④新島村保健師研修の講師「事業評価」「健康危機管理」（2017.8.21，各受講者4名，新島村）⑤島しょ町村保健師スキルアップ支援事業・現

地研修の講師「災害時の行政保健師の役割について」「新任期保健師人材育成計画検討」「保健事業評価について」（2017.9.10～12，各受講者5名，小笠原村）
13）江角：①栃木県思春期ピアカウンセラー養成講座講師（2017.8.12-15，受講者約30名，下野市）②栃木県地域保健福祉職員研修（調査研究支援研修）の講師③日本思春期学会評議員及び査読委員

精神看護学

教授　永井　優子

１．スタッフの紹介

教　授　永井　優子
教　授　半澤　節子
講　師　石井慎一郎（平成29年4月昇任）
助　教　路川　達阿起（平成30年3月退職）
助　教　佐藤　貴紀（平成29年4月着任）

取得資格：看護師，保健師。精神科認定看護師
学歴：公立大学法人埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科卒業
職歴：埼玉県精神医療センターにて看護師

２．教育の概要

１）精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人及び集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを 目標としている。

担当科目は，「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）は永井15時間，「精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，半澤10時間，永井12時間，石井6時間，「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，永井10時間，半澤2時間，石井2時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は，下野市，小山市，野木町，佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において，全教員で90時間を担当した。また，総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では，学生8名に対して120時間を担当した。さらに，石井は「看護トピックス」（4年次後学期1単位；必修）の2時間を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて，学生の学習支援を行い，アクティブラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

２）精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として，半澤は「援助関係論」（2単位）を30時間担当し，「生涯発達看護論」（2単位）では，永井が18時間担当した。また，永井，半澤，路川，佐藤は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。石井は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。

３．研究の概要

永井は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）「看護基礎教育課程における認知症看護実践能力修得に向けたカリキュラムの開発」（代表者:湯浅美千代，2017年4月～2021年3月）の分担研究者として，同研究を実施している。また，半澤，石井，路川とともに，本学科目で取り組んできた精神科デイケアおよび精神障害者を対象とする福祉施設を実習施設として地域における精神保健看護実習の展開方法について，（一社）日本精神保健看護学会学術集会にてワークショップを開催した。

半澤は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）「精神科臨床現場に形成されたモラルと行動制限に対する臨床判断に関する研究」の研究代表者（2014年4月-2018年3月）として石井，永井らを研究分担者として研究を実施した。また，基盤研究（C）「触法精神障害者の地域生活のおける現状と地域支援体制の確立に向けた基礎的研究」（代表者：宮城純子，2014年4月-2018年3月）の分担研究者として活動している。さらに，文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究Ｃ）による研究課題「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究」（研究代表者：小池純子）の分担研究者として石井とともに参加し，同研究を実施した。

石井は，文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究Ｃ）による研究課題「看護職のリフレクション及び継続学習を促進する他者とのかかわりの様相」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。また，本学看護学部教員平成29年度共同研究費による研究課題「看護学士課程の学生の省察に

かかわる情動と他者とのかかわりに関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，路川，佐藤（貴），実習施設の竹澤将也（佐野厚生農業協同組合連合会佐野厚生総合病院），玉生浩子（社会福祉法人ブローニュの森）であった。加えて本学看護学部教員平成29年度共同研究費による研究課題「少子化が進む地域における子どもの健やかな育ちを支援する体制づくり」（研究代表者：青木さぎ里）の分担研究者としもて参加し，同研究を実施した。

さらに，本看護学部で取り組んでいる私立大学戦略的研究基盤形成事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」については，地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究として，永井は路川らと受講者のリクルートや広報活動を担当し，半澤は科目責任者として，ｅラーニングによる高齢者看護:認知症の科目をベーシック・プログラムおよびフォローアップ・プログラムとして実施し，評価を行った。また，石井と佐藤は地域ケア実践看護師の教育・支援システムの開発研究として教育システムの運用等について取り組んだ。

その他各教員が，国内外の学会での発表，学内外の学術雑誌への論文掲載および査読などを担当している。また，永井を中心に発足して11年目を迎えた北関東精神保健看護研究会は，年2回の研究会を継続しており，栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換，実践の場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

４．その他

永井は，栃木県，日本看護協会看護研修学校糖尿病認定看護養成課程等が主催する各種研修会の講師および四日市医療看護大学大学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また，日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会の分科会委員として，精神看護専門看護師教育課程の審査に協力した。(一社) 日本精神保健看護学会理事長・代議員・査読委員，日本ルーラルナーシング学会評議員・理事（事務局長），千葉看護学会，日本看護学教育学会の評議員，文化看護学会の監事，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本家族看護学会の査読委員，日本病院・地域精神医学会編集委員を務めている。さらに，介護福祉士国家試験委員（幹事）を務めた。

半澤は，日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当），同学会誌編集委員，査読委員，日本社会精神医学会理事，同学会編集委員，査読委員，日本精神保健・予防学会の評議員，日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員，日本精神神経学会 英文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences, Psychiatry Research, International Journal of Culture and Mental HealthおよびAsian Federation of Psychiatric Associations, Asian Journal of PsychiatryのReviewer，日本精神保健看護学会，日本ルーラルナーシング学会，日本看護科学学会和文誌の専任査読委員，日本精神保健福祉学会機関誌の編集委員を務めた。また，2017年度は公益社団法人全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）「効果的な家族支援などのあり方に関する全国調査」の調査委員を務めた。さらに，2017年度から2年間，厚生労働省「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業」の広域アドバイザーを務めた。

石井は，自治医科大学看護学ジャーナルの投稿論文1本の査読を行った。また，日本ルーラルナーシング学会の事務局員を務めた。

母性看護学

教授　成田　伸

１．スタッフの紹介

教　授　成田　　伸
教　授　野々山未希子
准教授　角川　志穂
助　教　望月　明見

２．教育の概要

１）母性看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）（1年次後学期2単位：必修）

成田が担当し，望月，臨時教員の井野の協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

⑵周産期実践看護学Ⅰ（2年次後学期1単位：必修）

成田が科目責任として総括し，望月と臨時教員の井野が協力し実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい，学生と交流することで効果的な学習ができた。妊婦・産婦のアセスメントには，臨地スタッフや地域助産師に教育支援者として協力してもらい，学生が十分な指導を得られるようにした。

⑶周産期実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

望月が科目責任として総括し，成田と臨時教員の井野が協力し実施した。妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨地スタッフや地域助産師も教育支援者として加わり指導した。周産期看護実習につながる看護過程については，望月が中心となって実習時の展開を意識した書式の修正と褥婦・新生児の事例を作成したうえで，講義，アセスメントや看護技術の演習，事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

⑷生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

⑸周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり，望月，角川と臨時教員の井野，天谷，鈴木が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

２）助産学に関する教育概要

⑴助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。助産師の概念，助産師活動の概要，助産師の国際活動，海外の母子保健，性と生殖の健康と人権，助産に係る生命倫理などを教授した。人権や生命倫理に関しては，事例に基づき意見交換を行うことで，学生が支援方法を考えることができた。

⑵基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる妊娠・分娩期の生理と病態，胎児の成長と発育，附属物の構造と機能，妊娠・分娩期の正常からの逸脱などについて教授した。

⑶基礎助産学Ⅱ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる産褥期・新生児期の生理と病態，正常からの逸脱，ハイリスク新生児などについて教授した。

⑷基礎助産学Ⅲ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。母子と家族の健康に影響を与える要因，母性・父性の発達と家族役割周産期の母子と家族の心理的側面，妊娠・出産に関わる社会文化的側面について教授した。母子と家族の健康と生活，心理・社会的側面に影響を与える要因については，事例をもとにグループワーク及び意見交換をすることで，多角的な視点からのアセスメントについて学ぶことができた。

⑸実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し，角川が科目責任者として総括し，野々山，臨時教員の上野と一緒に講義・演習を展開した。

⑹実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し，角川が科目責任者として総括し，野々山と臨時教員の上野と一緒に講義・演習を展開した。分娩介助の

演習については，学生が実習予定の施設の臨地指導者に来学いただき，具体的な指導を展開してもらった。

⑺実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し，角川が科目責任者として総括し，野々山と一緒に講義・演習を展開した。

⑻実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し，野々山が科目責任者として総括し，地域における助産師の母子保健活動，産褥期の健康教育・保健指導について教授した。地域で活動する助産師講義も入れることで，様々な場での助産師活動について学ぶことができた。

⑼助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し，野々山が科目責任者として総括し，助産師の活動に関わる管理の概念と活動，災害時の役割，助産業務と医療事故などについて教授した。

⑽助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生7名が受講した。野々山が科目責任者として総括した。自治医科大学附属病院は学生3名で主に野々山と臨時教員の井野が，さいたま医療センターは学生2名で，主に成田，望月と臨時教員の鈴木が，済生会は学生2名で主に角川と臨時教員の藤原が担当した。分娩期の対象者を受持ち，ケアを展開し，必要な分娩介助件数を達成し，継続ケースのケアを展開した。

３）母性看護学・助産学以外の担当教育概要

⑴基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

成田，野々山が分担者としてそれぞれのグループを担当し，レポート作成を指導した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

望月が分担者として1グループを担当し，レポート作成を指導した。

⑶総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田，野々山，角川，望月で母性看護学領域に配置された学生10名を担当し，総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして，附属病院産科病棟およびNICU，附属さいたま医療センター産科病棟，大野医院を使用し，栃木県助産師会の協力を得た。

⑷看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し，母性看護学教員，TA，臨床助教の協力を得て実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し，最新知識を教授した。

⑸看護管理学（4年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者として担当し，福田講師，非常勤講師の協力を得て実施した。特に非常勤講師は，附属病院看護部長，医療情報部担当の看護副部長，キャリア支援センター担当師長，シミュレーションセンター長等，看護・病院管理の最前線で活躍する方々であり，充実した内容であった。

⑹ジェンダー論（1，4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し，非常勤講師の協力も得て，ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

３．研究の概要

１）成田は，文部科学省科学研究補助金（挑戦的萌芽研究）による研究課題「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」の研究代表者として参加し，最終年度にあたる同研究を実施した。研究分担者は，聖マリア学院大学松原まなみ，川口弥恵子，広島大学大平光子，富山大学笹野京子，松井弘美，兵庫医療大学工藤里香，大阪府立大学山田加奈子であった。

２）望月は，文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究（萌芽））による研究課題「出所後に子育てが必要な女子受刑者への刑務所内支援モデルの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，自治医科大学田村敦子，国際医療福祉大学小池純子，自治医科大学成田伸，連携研究者は，筑波大学大谷保和，筑波大学森田展彰であった。

３）野々山は，厚生労働科学研究費補助金による新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業による研究課題「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究（研究代表者：神戸大学荒川創一）に研究協力者として参加し，同研究を実施した。

４）望月は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)(一般)肝移植後の思春期患 者に向けた他職種連 携による自立支援プログラムの構築（研究代表者：自治医科大学田村敦子）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。

5）望月は，厚生労働科研究費補助金における障碍者政策総合研究事業（精神障害分野）による課題名「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究」（研究代表者：国立精神・神経医療研究センター病院松本俊彦）の研究プロジェクトの一部として行われている「更生保護施設における薬物問題のある者の回復過程とその支援に関する研究」（研究代表者：筑波大学森田展彰）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。

4．その他

1）成田は，群馬大学大学院において「ハイリスク状態にある女性への援助とケアシステム－糖尿病を合併した女性と家族への援助」について教授した。
2）野々山は，母子保健研修センター助産師学校1年課程において，助産診断・技術学「性感染症」について教授した。
3）野々山は，上尾看護専門学校において，成人看護援助論Ⅱ「HIV感染症／AIDSの看護」「STIとその予防」について教授した。
4）成田は，日本母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として，日本母性看護学会が主催する周産期・育児期の糖代謝異常に強い看護職育成セミナーを企画・運営し，講師も担当した。
5）成田は，第19回日本母性看護学会学術集会において，戦略的プロジェクト担当理事として，交流集会「母性看護専門看護師育成の現状と課題」を企画し，講師を務めた。
6）成田は，第19回日本母性看護学会学術集会において，ランチョンセミナー「糖尿病と妊娠Up to date」の座長を務めた。
7）野々山は，第36回日本看護科学学会学術集会査読委員を務め，学会抄録の査読を行った。
8）野々山は，性の健康医学財団賞選考委員を務め，財団賞の決定を行った。
9）野々山は，日本性感染症学会誌査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。
10）野々山は，第30回日本性感染症学会学術大会において，シンポジウム「次世代の健康を育むための性感染症予防教育」を企画し，座長を務めた。
11）野々山は，第30回日本性感染症学会学術大会において，学会抄録の査読を行った。
12）角川は，日本母性衛生学会の代議員として，日本母性衛生学会学会誌「母性衛生」の査読を行った。
13）角川は，日本母性看護学会の専任査読委員を務め，「日本母性看護学会学会誌」の投稿論文の査読を行った。
14）角川は，岩手県看護学会の査読委員を務め，「岩手県看護学会会誌」の査読を行った。
15）角川は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」編集委員長を務めた。
16）角川は，平成29年度JICA青年研修事業の一環で，インドネシアの研修生に対して「日本における助産師活動の実際」について講義を行った。
17）望月は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。
18）望月は，栃木県看護協会が主催する栃木県助産師相互研修　新生児蘇生法 2015年版Aコースのインストラクターを務めた。

小児看護学

教授　横山　由美

1．スタッフの紹介

教　授　横山　由美
講　師　田村　敦子
助　教　手塚　園江（2017年4月1日着任）
取得資格：看護師
学歴：自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程
職歴：自治医科大学とちぎ子ども医療センター，小児看護専門看護師

2．教育の概要

1）小児看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。
横山が科目責任者として総括し，田村が分担して実施した。

⑵小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対しての援助を学習する。
横山が科目責任者として担当し，田村が分担して実施した。また，臨床教授の朝野が2時間講義を担当した。

⑶小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位必修）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。
田村が科目責任者として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村手塚と堀田（臨時教員），石田（臨時教員）で実施した。非常勤講師として精神医学阿部，医学部小児科学小高が2時間ずつ講義を担当した。

⑷小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）
小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。
田村が科目責任として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村，手塚，堀田（臨時教員），石田（臨時教員）で実施した。非常勤講師として，医学部小児外科学小野，小児科学長嶋が2時間ずつ，移植外科学水田が1時間の講義を担当した。

⑸小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。
横山が科目責任者として総括した。田村，手塚，堀田（臨時教員），石田（臨時教員）が担当した。

3）小児看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）
横山，手塚が分担者としてグループを担当し，レポート作成を指導した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）
田村が分担者としてグループを担当し，文献講読およびレポート作成を指導した。

⑶看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）
横山，田村，手塚で小児看護学領域に配置された学生7名を指導した。

⑸総合実習（4年次前学期2単位：必修）
横山，田村，手塚，堀田（臨時教員）で小児看護学領域に配置された学生7名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

⑹看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）
田村が担当し，学生13名を指導した。

3．研究の概要

1）手塚，横山，田村は，自治医科大学附属病院看護部大海佳子，看護部相場雅代，看護部飯島早絵，看護部塚本浩章とともに，「小児専門病院の看護師を対象としたプレパレーションの実践を促進する教育方法の検討」をテーマに取り組んだ

2）田村は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「小児がん経験者・家族への長期フォローのための看護師教育プログラムと家族支援の構築」（研究代表者:聖路加国際大学小林京子）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

3）田村は，文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究（萌芽）「子育てが必要な女子受刑者の養育実態とその支援に向けた基礎研究」（研究代表者:望月明見）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

4）手塚は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（A））による研究課題，「オレムのセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」

の構築」（研究代表者：関西医科大学 片田範子）に，研究協力者として参加し，同研究を実施した。
５）手塚は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「肝移植後の思春期患者に向けた多職種連携による自立支援プログラムの構築」（研究代表者：田村）に，研究協力者として参加し，同研究を実施した。

４．その他

１）横山は，東京都保健医療公社　多摩南部地域病院看護部研修で，看護研究の講師を務めた。
２）横山は，博士前期課程の飯島，小西，川上，とともに小山市立寒川小学校および日光市立日光中学校および中学校区の小学校3校，小山市立間々田東小学校，足利市立富田中学校の学校保健委員会で児童，生徒を対象に健康教育を行った。また，子ども医療センター小児看護専門看護師佐々木綾香とともに日光市立中宮祠小学校，横山のみで佐野市立飛駒小学校の児童を対象に健康教育を行った。
３）横山，田村，手塚は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで，退院後の育児，相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
４）横山は，日本ルーラルナーシング学会副事務局長を務めた。
５）横山は，日本小児看護学会誌専任査読者を務めた。
６）横山は，聖路加看護学会誌の査読委員を務めた。
７）手塚は，自治医科大学とちぎ子ども医療センターで教育グループの委員を務めた。

成人看護学

教授　中村　美鈴

１．スタッフの紹介

教　授　中村　美鈴（2018年3月31日退職）
准教授　佐藤　幹代
講　師　長谷川直人
講　師　中野真理子
講　師　藤巻　郁朗（2017年4月1日就任）
　取得資格：看護師・保健師
　学歴：修士（保健学）群馬大学大学院保健学研究科保健学専攻
　職歴：群馬大学医学部附属病院（看護師），群馬パース大学保健科学部看護学科（助教）
助　教　佐々木　彩加
助　教　古島　幸江

２．教育の概要

成人看護学の教育目標は，健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

１）成人看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期2単位：必修）

中村が12時間，佐藤が10時間，長谷川，中野，藤巻が各2時間の講義を担当した。

⑵成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が8時間，佐藤が6時間，長谷川が4時間，中野が8時間，佐々木が2時間の講義を担当した。

⑶成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，中村が4時間，中野が4時間，古島が4時間を担当した。演習16時間は，中村が全体を統括し，成人看護学全教員が担当した（演習企画主担当：中村（看護過程8時間），中野（呼吸機能障害2時間），藤巻（生命の危機2時間），古島・中村（循環機能障害2時間，手術療法2時間））。

⑷成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，佐藤が6時間，長谷川が6時間を担当した。演習2時間は，長谷川が全体を統括し，成人看護学全教員が担当した（演習企画主担当：長谷川（内部環境調節機能障害2時間））。

⑸成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

講義は，藤巻が10時間，佐々木が4時間を担当した。演習14時間は，佐藤が全体を統括し，成人看護学全教員が担当した（演習企画主担当：佐藤（看護過程10時間），藤巻（運動機能障害2時間），佐々木（感覚機能障害2時間））。

⑹成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

中村が全体統括し，寺内非常勤教員とともに2クールを担当した。ほか，成人看護学全教員が2クールを担当した。

⑺成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

中野が全体を統括し，中野，藤巻，古島が各3クール，佐藤，長谷川，佐々木が各2クールを担当した。

⑻成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

佐藤が全体を統括し，佐藤，長谷川，佐々木が各3クール，中野，藤巻，古島が各2クールを担当した。

２）成人看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

藤巻，佐々木，古島はグループ別セミナーを担当した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村は科目責任者として全体を統括し，4時間の講義とグループ別セミナーを担当した。佐藤，長谷川が2時間の講義とグループ別セミナーを担当した。中野はグループ別セミナーを担当した。

⑶看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中村が全体を統括し，成人看護学全教員が計21名の学生を指導した。

⑷総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中村が全体を統括し，成人看護学全教員が学生19名を指導した。

⑸看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

中野が全体を統括し，企画運営を担当した。佐藤が2時間の講義を担当した。他，成人看護学教員全員が学生を指導した。

⑹チーム医療論（4年次前学期および2年次後学期1単位：必修）

中村は科目責任者として全体を統括し，2時間の講義を担当した。佐藤，長谷川，中野，藤巻が各2時間，細田満和子非常勤講師（星槎大学副学

長，共生科学部教授）が4時間の講義を担当した。
⑺へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）
　長谷川はグループ別研修指導を担当した。

３．研究の概要

⑴中村は，文部科学省科学研究助成金（挑戦的萌芽研究）による「急性・重症患者のレジリエンスを支える看護モデル開発に向けた挑戦的取り組み」の研究代表者として研究活動を推進し，質問票を検討した。分担研究者は，名古屋市立大学　明石恵子教授，聖路加国際大学の宇都宮明美准教授であった。
⑵中村は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」（研究代表者：中野真理子）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。
⑶佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「患者・医療者・研究者共同による乳がん患者の手術後退院支援モデルの構築」（研究代表者：札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授）に，分担研究者として共同研究を実施した。
⑷佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア：臨床応用をめぐる　縦断的研究」（研究代表者：日本女子大学　研究員　門林道子）に，分担研究者として共同研究を実施した。
⑸佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウエブサイト　構築と評価」（研究代表者：東京女子医大看護学部非常勤講師　森田夏実）に，研究協力者として参加し，共同研究を実施した。
⑹佐藤は，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)）による研究課題「慢性の痛み語りデータベース構築と生活の再構築に関する研究」の研究代表者として，同研究を下記研究者らと共同し，慢性の痛みをもつ人とその家族の語りのインタビューを全国で実施し，データベース構築を行った。研究分担者は，札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授，聖路加国際大学　高橋奈津子准教授，東京交通短期大学　濱雄亮講師であった。研究協力者は，特定認定NPO法人―佐藤（佐久間）りか，射場典子，別府宏圀　らであった。
⑺佐藤は，文部科学省科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）による研究課題「慢性の痛みの語りの映像を用いた慢性痛患者への看護支援モデル構築と評価」の研究代表者として，同研究を研究者らと共同し推進した。研究分担者は，聖路加国際大学　高橋奈津子准教授であった。研究協力者は，特定認定NPO法人― 佐藤（佐久間）りか，射場典子，別府宏圀　らであった。
⑻長谷川は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「看護師特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の研修成果分析―講義科目内容の妥当性および実習科目との連動性の検討―」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本学医学部教員石橋俊，岡田健太，本学附属病院看護部馬場千恵子，本学看護師特定行為研修センター村上礼子であった。
⑼中野は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」の研究代表者として参加し同研究を実施した。研究分担者は本学看護学部教員の中村美鈴教授であった。
⑽佐々木は，文部科学省科学研究補助金（若手研究（B））による研究課題「看護学生におけるレジリエンスと脳腸相関との関連性について」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

４．その他

⑴中村は，CRSTの一員として活動した。
⑵中村は，日本ルーラルナーシング学会の専任査読員を務め，投稿論文1本の査読を行った。
⑶中村は，2009年度から日本看護教育学学会学会誌の専任査読委員を務め，投稿論文の2本の査読を行った。
⑷中村は，2008年度より日本クリティカケア学会学会誌編集委員会の編集委員と専任査読委員を務め，投稿論文4本の査読を行った。
⑸中村は，2006年9月より日本救急看護学会の専任査読委員を務め,投稿論文2本の査読を行った。
⑹中村は,日本看護科学会誌 Japan Journal of Nursing Scienceの編集委員を務め，投稿論文の5本の査読を行った。
⑺中村は,2015年より，日本手術看護学会の専任査

読委員を務め，　投稿論文2本の査読を行った。
⑻中村は，第19回日本救急看護学術集会の査読委員を務め，一般演題5本の査読を行った。
⑼中村は，第13回日本クリティカルケア看護学会学術集会の査読委員を務め，一般演題3本の査読を行った。
⑽中村は，第37回日本看護教育学学会の査読委員を務め，一般演題5本の査読を行った。
⑾中村は，第12回日本ルーラルナーシグ看護学会の査読委員を務め，一般演題3本の査読を行った。
⑿中村は，第12回日本クリティカルケア看護学会　学術集会　集会長を務めた。
⒀中村は，北関東救急看護研究会の会長を務め，3回の研究会を開催した。
⒁中村は，日本保健医療社会学会　看護・ケア部会の部会長を務め，6回の研究会を主催した。
⒂中村は，文部科学省　科学研究費　第一審査委員を務めた。
⒃中村は，第13回日本クリティカルケア看護学会・学術集会において，一般演題の座長を担当した。
⒄中村は，第12回日本ルーラルナーシング看護学会において，「へき地における救急看護の現状と課題」というテーマで示説の座長を務めた。
⒅中村は，第19回日本救急看護学会学術集会において，ワークショップ「第7回　ともに考えよう～救急看護実践における倫理的課題への対応～」を企画し，主催した。
⒆佐藤は，自治医科大学附属さいたま医療センター　看護研究発表会で，看護研究支援演題の講評を行なった。
⒇佐藤は，第48回　日本看護協会　慢性期看護論文選考委員を務め，投稿論文4本の査読を行った。
(21)長谷川は，東京医科大学八王子医療センターの外来看護師を対象に，研究課題「がん化学療法による末梢神経障害を抱えながら治療を継続している患者を支える看護実践」について，研究指導を行った。
(22)長谷川は，東京医科大学八王子医療センターの消化器内科病棟の看護を対象に，研究課題「がん告知に同席する病棟看護師が抱く負担感の様相と要因」について，研究指導を行った。
(23)長谷川は，東京医科大学八王子医療センターの内分泌代謝科・腎臓内科病棟の看護師を対象に，研究課題「新人看護師の夜勤独り立ち2か月後の思い」について，研究指導を行った。
(24)長谷川は，日本糖尿病教育・看護学会誌の専任査読者を務め，投稿論文1本の査読を行った。

老年看護学

教授　宮林　幸江

１．スタッフの紹介

教　授　宮林　幸江（2018年3月31日退職）
准教授　浜端　賢次
准教授　川上　　勝
講　師　清水みどり

２．教育の概要

老年看護学では，様々な生活の場・療養の場で，あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として，看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

１）老年看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）
（1年次後学期2単位：必修）
老年看護学の概念及び対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。高齢者疑似体験や回想法に関する学びを取り入れた。臨床の場における看護の実際が理解できるよう，鮎澤みどり非常勤講師，船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

⑵老年実践看護学Ⅰ
（2年次前学期1単位：必修）
高齢者の健康特性及び健康評価に基づき，セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に，高齢者の保健・医療・福祉の連携など，高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。なお，鮎沢みどり非常勤講師による講義を組込んだ。

⑶老年実践看護学Ⅱ
（2年次後学期2単位：必修）
加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また，臨床の場の看護の実際が理解できるよう，太田信子臨床講師，簗瀬順子臨床講師，栗原日登美臨床講師，安西典子臨床講師，手塚芳美臨床講師による講義を組込んだ。

⑷老年実践看護学Ⅲ
（3年次前学期1単位：必修）
老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし，臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害，皮膚障害，排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また，認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。

⑸老年臨床看護実習
（3年次前学期2単位：必修）
清水は科目責任者として全体を統括した。附属病院および介護老人保健施設において，疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

⑹老年在宅看護実習
（3年次後学期3単位：必修）
浜端は科目責任者として全体を統括した。県内の訪問看護ステーション12施設及び通所リハビリテーション施設2施設において，在宅療養者とその家族の支援について看護を展開した。

２）老年看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー
（1年次前学期1単位：必修）
宮林は路川助教と7名の学生を，浜端は湯山助教と8名の学生を，川上は野々山教授と7名の学生を担当した。

⑵文献講読セミナー
（2年次前期1単位：必修）
清水は9名の学生を担当した。

⑶看護総合セミナー
（4年次後学期4単位：必修）
10名の学生を対象に，看護実践課題に沿った先行研究の文献検討，総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員2～3名の学生を担当した。

⑷総合実習
（4年次前学期2単位：必修）

10名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し，実践内容が目的に沿うよう随時指導した。（担当：全教員）

⑸看護トピックス
（4年次後学期1単位：必修）
12名の学生を対象に，高齢者を取り巻く保健医療の現状と課題や，「保健医療2035」を参考に将来の保健医療のあり方を検討し，共有した。（担当：全教員）

3．研究の概要

1）宮林は，文部科学省研究助成金（基盤研究（C））「認知症高齢者地域包括ケア病棟に入院する認知症高齢者を支援する多職種専従チームの開発」（研究代表者：浜端賢次）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。
2）浜端は，文部科学省研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「認知症高齢者地域包括ケア病棟に入院する認知症高齢者を支援する多職種専従チームの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は宮林幸江，筑波大学 春田淳志であった。
3）浜端は，平成29年度自治医科大学看護系教員共同研究による研究課題「地域包括ケアシステムにおける生活支援コーディネーターの活動方法に関する研究」（研究代表者：鈴木久美子）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は，春山早苗，関山友子，青木さぎ里，土谷ちひろ，下野市役所：鳥居みゆき，朝川美也子，鈴井祐孝，小島恒夫，井上永子，隅谷サヨ子であった。
4）川上は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究(C)）による研究課題「部位別体動の検知に基づく認知症高齢者の起上り予測法の確立と次世代見守り装置の開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は宇都宮大学　尾崎功一であった。
5）川上は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究(B)）による研究課題「ヘルスケア・デリバリーシステムの構築とマネジメント」（研究代表者：神奈川大学　高野倉雅人）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
6）川上は，平成29年度自治医科大学看護系教員共同研究による研究課題「整形外科疾患患者の個別性に対応した自助具の開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は，附属病院看護師　安西典子，大森美穂，同理学療法士　川合直美であった。
7）清水は，「特別養護老人ホーム入所者の経口摂取支援のための看護役割行動指標の開発」の研究を代表者として実施した。研究分担者は千葉大学大学院看護学研究科　吉本照子，同上　杉田由加里であった。

4．その他

1）宮林は，5月及び6月に「フィジルアセスメントの正しい知識と実践テクニック」の講義・実技（6時間）を実施した。
2）宮林は，9月に市町村職員，救急職員らを対象に，「遺族（自死）の直面する現状と遺族支援の必要性について　－自殺とグリーフケア－」（福島県精神保健センター主催）および，訪問看護師や一般市民らを対象に“「グリーフケア」ってなぁに？　愛する人・大切な人を亡くした時の悲しみにどう向き合いますか？”（須賀川クリニック・健康未来24主催）について，講演した。
3）浜端は，2月に下野市高齢福祉課基幹型地域包括支援センターにおいて，「認知症サポーターステップアップ」講座を2時間担当した。
4）浜端は，3月から平成30年3月まで1年間「生活支援体制整備事業に係る下野市第１層協議体」において，議長を担当した。
5）浜端は，8月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会「保健・医療・福祉サービス提供組織のしくみ」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を6時間担当した。
6）浜端は，10月に北海道道南地区介護老人保健施設職員研修会において，「倫理的配慮にもちいたケアについて」講座を4時間担当した。
7）浜端は，11月・12月に「介護施設等看護師キャリアアップ研修：高齢者の心身及び疾患の特徴とフィジカルアセスメント」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を4時間担当した。
8）浜端は，11月・12月に「実習指導者講習会 特定分野：在宅」（栃木県看護協会主催）において，演習（実習指導の実際）を24時間担当した。

９）川上は，JAかみつが厚生連 上都賀総合病院看護部職員を対象に看護研究全般について指導を行った。
10）川上は，8月に実習指導者養成講習会「実習指導の原理」（栃木県看護協会主催）において，講義を6時間担当した。
11）川上は，11月に終章学「高齢社会に立ち向かう先輩の姿」（宇都宮大学とちぎ終章学センター主催）の講義を担当した。
12）清水は，さいたま医療センター看護部職員を対象に看護研究の指導を行った。

大学院看護学研究科　教育の概要

実践看護学分野「小児看護学領域」

教授　横山　由美

１．スタッフ紹介

教　授　横山　由美

２．大学院教育の概要

小児看護学は，さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に，子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ，専門的な知識や研究課題を探求するとともに，高度な看護実践能力を育み，小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成28年度は，研究を主体とする課程の2年次1名，1年次2名の教育を行った。

院生の状況を配慮しつつ，ティーチングアシスタントとして，小児看護学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し，教育方法について指導した。

１）小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために，成長発達，生活，社会的・歴史的側面から，主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。履修者が居なかった。

２）小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために，小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。履修者が居なかった

３）小児看護学演習Ⅰ（1年次後期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し，看護の役割・活動について学ぶ。履修者が居なかった。

４）小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。1年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師の医学部教員河野，熊谷が分担者として担当した。

５）小児看護学演習Ⅲ（1年次後期2単位）

事例を用いて小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について検討する。履修者が居なかった。

６）小児看護学演習Ⅳ（2年次前期2単位）

小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセスについて学ぶ。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常講師として医学部阿部2時間，河野2時間，南6時間，熊谷8時間，長嶋8時間，小児看護専門看護師の黒田2時間，村山2時間が分担者として担当した。

７）小児看護学特別演習（2年次前期4単位）

小児看護における現状を分析して課題を見出し，改善・改革の方法について明らかにする。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として担当した。

８）実践看護学特別研究（2年次後期6単位）

実践看護学の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し，修士論文を作成する。2年次1名が履修し修士論文として提出した。研究指導教員として横山が担当した。

３．その他

博士前期課程の飯島，小西，川上は横山とともに小山市立寒川小学校および日光市立日光中学校および中学校区の小学校3校，小山市立間々田東小学校，足利市立富田中学校の学校保健委員会で児童，生徒を対象に健康教育を行った。

実践看護学分野「母性看護学領域」

教授　成田　　伸

１．スタッフ紹介

教　授　成田　　伸
教　授　野々山　未希子
准教授　角川　志穂

２．大学院教育の概要

１）博士前期課程専門科目に関する教育概要

博士前期課程については在学生がおらず，講義・演習・実習は行わなかった。

２）博士前期課程共通科目に関する教育概要

野々山は，看護実践研究論の第6-10回を野々山が担当し，専門看護師教育課程を希望する3名に対して，研究目的と研究方法についての教育を行った。看護実践研究にふさわしい研究目的および，目的を達成するための研究方法を選択するための文献検討・クリティークについて，講義及びプレゼンテーション・討議により学習した。

３）博士後期課程の教育概要

成田は，博士後期課程については，広域実践看護学特論Ⅰおよび広域実践看護学演習〈看護教育・看護管理〉の科目担当者として講義・演習を展開した。

成田は，博士後期4年目の工藤里香，2年目の西岡啓子の研究計画立案に向けて指導を行なった。

実践看護学分野
「クリティカルケア看護学領域」

教授　中村　美鈴

１．スタッフの紹介

教　授　中村　美鈴
准教授　佐藤　幹代

２．教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え，苦悩・苦痛を緩和し，危機的状態からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために，状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

また，平成29年度は，高度実践看護師教育課程について，26単位から38単位に移行し3年目を迎え，2年次生１名，1年次生２名が在籍し，１年次生２名が38単位の教育課程を履修している。

１）クリティカルケア看護学に関する教育概要
＜38単位教育課程の教育概要＞

⑴クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が26時間，山勢博彰（山口大学大学院医学系研究科教授）4時間の講義を担当した。

⑵クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が4時間，竹内護非常勤講師，井上莊一郎非常勤講師（聖マリアンナ医科大学/大学病院・麻酔学　教授）が各2時間，布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が12時間，三澤吉雄非常勤講師（本学医学部心臓血管外科部門教授）が4時間，斎藤修非常勤講師（本学医学部腎臓内科部門准教授）2時間，佐久間康成非常勤講師（本学医学部消化器外科学部門准教授）2時間，水田耕一（本学医学部移植外科学部門准教授）2時間の講義を担当した。

⑶クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1年次後学期2単位：必修・選択）

中村が8時間，布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が8時間，竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が4時間，鈴川正之非常勤講師（本学医学部・救急医学・教授）が４時間，多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間，川合謙介非常勤講師（本学医学部・脳神経外科教授）が2時間，山下圭輔非常勤講師（本学医学部・救急医学・教授）が2時間の講義を担当した。

⑷クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

中村が32時間，佐藤が8時間，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS）が中村とともに20時間の講義・演習を担当した。

⑸クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

中村が48時間，佐藤が12時間，井上莊一郎非常勤講師（聖マリアンナ医科大学/大学病院・麻酔学　教授）が4時間，木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院看護副部長）が８時間の講義・演習を担当した。

⑹クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1年次後学期2単位：必修）

中村が32時間，佐藤が12時間，古賀雄二非常勤講師（亀田医療大学看護学部看護学科 講師）が8時間，綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校 教授）が8時間の講義・演習を担当した。

⑺クリティカルケア看護学演習Ⅳ（1年次後学期2単位：必修）

中村が6時間，佐藤が4時間，土蔵愛子非常勤講師（東京女子医科大学看護学部認定看護師センター）が4時間，谷島雅子非常勤講師（本学附属病院CNS），茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS），上澤弘美非常勤講師（土浦協同病院CNS），渡邊好江非常勤講師（杏林大学医学部付属病院CNS）が中村とともにそれぞれ4時間ずつ講義・演習を担当した。

⑻クリティカルケア専門看護実習Ⅰ（1年次後学期2単位：選択必修）

高度医療施設において，2月14日～2月27日の期間に実施し，2名が履修した。2単位（中村が担当，佐藤は調整を担当）が開講された。また，朝野春美（本学付属病院看護部長・臨床教授），小谷妙子および渡辺芳江（本学学付属病院看護部副部長・臨床准教授）らは，実習の相談・調整をおこない，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院・ICU看護師長・CNS・臨床講師），神山淳子（本学付属病院・ICU・臨床講師），谷島雅子（本学救急部・CNS・臨床助教）は，実践指導およびカン

ファレンスの指導に当たった。

⑼クリティカルケア専門看護実習Ⅱ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない。

⑽クリティカルケア専門看護実習Ⅲ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない。

⑾クリティカルケア看護学課題研究（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない。

⑿クリティカルケア看護学特別演習（2年次前・後学期4単位：選択必修）

研究指導教員として中村が40時間，ゼミ形式で48時間，研究指導補助教員佐藤が28時間の講義・演習を担当した。

⒀実践看護学特別研究（2年次後学期6単位：選択必須）

中村が96時間，佐藤が24時間（中村の補佐で40時間）講義，演習した。

実践看護学分野「精神看護学領域」

教授　半澤　節子

1．スタッフの紹介

教　授　永井　優子
教　授　半澤　節子

2．教育の概要

精神看護学の教育活動は，主として精神的な健康危機状態について，人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援まで多様な対象を守備範囲とし，上級の精神看護実践専門職として役割を果たし，実践状況を変革できる人材育成を目指している。

平成29年度は精神看護学に関する専門科目の履修登録した院生はいなかったため，開講された科目はなかった。

実践看護学分野「がん看護学領域」

教授　本田　芳香

1．スタッフの紹介

教　授　本田　芳香
教　授　小原　　泉

2．教育の概要

がん看護学領域は，平成19年度に文部科学省の「がんプロフェショナル養成プラン」において，本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において，平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に，がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して，看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。本領域ではがん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに，がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し，苦痛や苦悩を緩和し，生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。平成22年に専門看護師教育課程（28単位）の認定を受け，平成26年には，博士前期課程の教育課程として改編し，38単位の専門看護師教育課程の認定を受けた。

1）がん看護学に関する教育概要

平成29年度入学者はいなかった。平成28年度入学者1名は，がん看護専門看護実習Ⅰ，がん看護専門看護実習Ⅱ及びがん看護学特別研究を受講した。

【がん看護専門看護実習Ⅰ】（2年次前期）6単位

がん患者と家族に継続的かつ質の高い緩和ケアを提供する病棟，外来など様々な場において，専門看護師の役割・機能の実際，および高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際を通して，創造的ながん看護ケア開発の方法を理解することを到達目標とした。がん看護専門看護実習Ⅰは，緩和ケア専門実習，CNS役割開発実習，上級実践がん看護実習の３つに分けて科目目標を達成するためにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施するよう実習体制を組んだ。評価方法は，実習記録などを含むレポート評価および実習評価基準に基づき，自己評価，実習指導者による他者評価，教員による総合評価で評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護専門看護実習Ⅱ】（2年次後期）4単位

がんの診断・治療に伴う臨床判断に基づいた身体管理方法の実際を通して，複雑な健康課題をもつがん患者およびその家族にキュアとケアを統合した看護ケア開発について理解することを到達目標とした。主に外来および病棟でがん化学療法を受け症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し，医師による臨床判断の内容や身体管理の方法を学ぶとともにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施する実習体制を組んだ。

評価方法は，実習記録を含むレポート課題および実習評価基準に基づき自己評価，実習指導者による他者評価，教員による総合評価にて評価を行った。小原，本田が担当した。

【がん看護学特別研究】（2年次後期）4単位

がん看護学領域における新たな知見を探求するため，研究課題に沿い科学的根拠に基づいた研究方法を用いて研究論文を作成することを到達目標とした。院生は1年次より自治医科大学シンポジウム，合同研究セミナー等により研究課題を絞りこみ臨床実践に寄与するための研究論文を作成した。評価方法は，一連の研究プロセスおよび成果物を総合的に評価した。小原が担当した。

2）その他　看護学部教育に関連する教育概要

⑴がん看護学に関連する教育概要

がん看護学（2年次後期科目1単位：選択）の科目責任者を小原が務めた。学習目的は，対象ががんを患う意味と，生命・生活への支障・影響を理解し，対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴，各健康時期（診断期から終末期に至るまで）のがん患者とその家族への看護の実際，がんに伴う症状（痛み，リンパ浮腫，倦怠感等）が生活・生命に与える影響と必要な緩和ケアについて，主に講義形式で授業をすすめた。またがん体験者によるがんと共に生きる患者の生活の理解についてがん体験者による講義も行った。授業は，科目責任者は小原，

他本田，3名の非常勤講師，教育支援者1名が担当した。

⑵がん看護学以外の担当教育概要

本田，小原は，基礎看護学関連科目（主に1年，2年次，4年次）11科目，他総合分野として，看護基礎セミナー（1年次前期科目1単位：必修）では，７～8名の学生を対象にセミナー形式ですすめていった。総合実習（4年次前期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後期科目6単位：必修）は，19名の学生を対象に前期の一部は全員にて文献検討をおこない，その後研究テーマ別に10名と9名のグループに分かれ，グループ指導および個別指導をおこなった。

地域看護管理学分野
「老年看護管理学領域」

教授　宮林　幸江

１．スタッフの紹介

教　授　宮林　幸江
准教授　浜端　賢次
准教授　川上　　勝

２．教育の概要

博士課程前期

１）老年看護管理学　演習Ⅱ（1・2年次後期）4単位

院生の研究テーマである「原発避難高齢者と看護」に関連する文献を収集し，論文からいわき市を中心とした現状を踏まえた討議を展開した。文献からは，未だ幻滅期にある原発避難者の確認，周囲の人々との関係性や地域的分断の回復にはまだ時間がかかることが分かった。加えて，応急的に作られた仮設住宅に居住する高齢者の生活には，どのような変化が生じているのかという点についても議論を深めた。仮設住宅に住む原発避難者の中には，睡眠障害が見られている人もおり，原発との関連があることが推測された。一方で，海外に目を向けるとチェルノブイリ原発があり，原発事故に伴う被災者への医療支援が重要であることが分かった。しかし，単発的な支援ではなく，ネットワークを構築することも重要であるとの議論に至った。

（担当　宮林，浜端）

２）老年看護管理学　特別演習Ⅱ（2年前期）4単位

院生の研究テーマと高齢者看護学との関連において，諸理論と先行研究を研究計画と差再度照合した。これまで実施してきた研究手法ならびに今後も進める研究手段が適切であるかについて議論した。院生のこれまでの実践経験を踏まえ，実践を通しての実証的研究に繋がっているかについても併せて確認した。院生の研究では混合研究（MiXed methods）を活用し，フォーカスグループによる質的研究とレジリエンス尺度・PGCモラールスケール（主観的幸福感尺度），SQD（心の健康問題）を用いて検証していくことを確認した。これらの演習により，研究テーマと方法論を決定する学修となり，研究計画書の作成に理解が深まった。

（担当　宮林）

博士課程後期

広域実践看護学特論Ⅲ（1年次科目　選択）2単位

悲嘆経験者のメンタルヘルスとグリーフケア及び遺族からの相談について，悲嘆の反応の悲嘆の正常・異常（複雑悲嘆）そしてグループ療法について講義をし，実際の事例を用いて，ケア・相談内容について理解を深めた。（宮林担当分）

（担当　半澤，宮林）

地域看護管理学分野
「地域看護管理学領域」

教授　春山　早苗

１．スタッフの紹介

教　授　春山　早苗
教　授　塚本　友栄
准教授　鈴木久美子

２．教育の概要

地域看護管理学の履修者は，2年生が3名（2年目が2名，3年目が1名）で全員が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では，地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり，地域ケア体制づくり，その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し，地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い，地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学特別演習」（4単位，春山・塚本・鈴木担当）であった。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は，地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し，研究を計画することである。2年生2名が履修した。文献検討，並びに，学生自身の研究テーマと関連させて，県内1市及び1カ所の訪問看護ステーションでフィールドワークを行い，ゼミと個別指導により，研究計画を精錬した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生1名の研究指導を行った。

修士論文のテーマは「生活困窮者世帯への児童虐待予防に関わる市町村保健師の活動方法」であった。

地域看護管理学分野
「看護技術開発学領域」

教授　村上　礼子

１．スタッフの紹介

教　授　村上　礼子
准教授　里光やよい
講　師　福田　順子
講　師　八木　街子

２．教育の概要

看護技術開発学の履修者は，1年生1名，2年生1名である。

看護技術開発学では，地域ケア・医療現場における特定行為を含めた看護技術の安全かつ有効な開発および，特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術を教授し，地域ケア・医療現場において管理的・指導的役割を担い，より質の高い看護ケアや看護サービスを提供するための看護技術を開発・改善できる人材を育成する。

１）看護技術開発学に関する教育概要

⑴看護技術開発学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

講義Ⅰでは，看護技術の概念および特徴，ならびに安全かつ有効な特定行為を含めた看護技術の開発に関する研究の動向を理解することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上と里光が担当した。

⑵看護技術開発学講義Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

講義Ⅱは，特定行為研修を含めた看護技術教育の実際および理論的根拠に基づいた看護技術教育のあり方について理解することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上と里光が担当した。

⑶看護技術開発学演習Ⅰ（1年次前期4単位：必須）

演習Ⅰでは，看護技術開発のプロセスおよび看護技術開発研究における倫理的課題を明確にし，特定行為研修を含め看護技術開発に活かせる課題や特定行為研修後のフォローアップまでを見据えた看護技術教育の研究課題を探究することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上，里光，福田，八木が担当した。

⑷看護技術開発学演習Ⅱ（1・2年次後期4単位：必須）

演習Ⅱでは，看護技術開発で用いられるさまざまな研究方法を実践的に検討するとともに，看護技術開発研究における改善・改革に向けた研究方法上の課題を探究することを到達目標とした。授業目標に関連した目標を学生自身が立て，特定行為研修の1科目の演習・実習を実施した。1年生1名が履修した。

村上，里光，福田，八木が担当した。

⑸看護技術開発学特別演習（2年次前期4単位：必須）

特定行為を含め看護技術開発に関する自己の研究疑問について文献や系統的レビューを行い，自己の研究課題の明確化及び研究計画を検討することを到達目標とした。2年生1名が履修した。文献検討，ならびに学生自身の研究テーマと関連させて，県内1市でフィールドワークを行い，ゼミと個別指導により，研究計画を洗練した。

⑹看護技術開発学特別研究（2年次後期6単位：必須）

村上が2年生1名の研究指導を行い，里光が研究指導を補助した。

修士論文のテーマは「訪問看護における胃瘻造設患者の傾向血腫開始に関する支援ニーズと看護実践」であった。

３．研究の概要

１）村上は，厚生労働省科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業「看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究」（研究代表：永井良三）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

２）八木は，厚生労働省科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業「看護師の特定行為研修の効果及び評価に関する研究」（研究代表：永井良三）に分担協力者として参加し，同研究を実施した。

３）村上は，文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「特定行為研修修了看護師がチーム医療の中で機能する組織体制づくりの支援に関する研究」の研究代表者として実施した。分担研究者は，本学部教員八木，特定行為研修センター　鈴木美津枝，本学部教員　川上，本学医学部教員淺田義和，中村剛史であった。

４）八木は，文部科学省科学研究補助金（若手研

究(B))による研究課題「医療安全教育のためのeラーニングデータベース開発研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。
５）里光は，本学部共同研究費「特定行為気管カニューレ交換の安全な実施と地域看護における成果」の研究代表となり，実施した。分担研究者は，村上，八木，附属病院　下田典子，小畑美加子，神山淳子であった。
６）村上は，本学部共同研究費「シリコン素材を用いた外科的デブリードマン練習用パッドの改良」の研究代表となり，看護師特定行為研修センター鈴木美津枝，八木，本田芳香，飯塚由美子，附属病院　前川武雄，太田信子とともに実施した。
７）八木は，本学部共同研究費「特定行為に係る看護師の研修に関する受講ニーズ調査」の研究代表となり，村上，看護師特定行為研修センター鈴木美津枝，附属病院渡辺芳江，石川鎮清，附属さいたま医療センター菅野一枝，讃井將満　とともに実施した。

４．その他

１）村上は，日本看護協会「看護師の特定行為に係る研究制度の活用促進に関する検討委員会」委員長を務める。
２）村上は，文部科学省　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」事業評価委員を務める。
３）村上は，厚生労働省　看護職確保対策特別事業「タスクフォース養成研修プログラム検討委員会」委員を務める。
４）村上は，「看護師特定行為研修指導者講習会実施者（タスクフォース）養成研修会（全日本病院協会主催）」(2017年11月19日，参加者150名）講師を務める。
５）村上は，平成29年第3回栃木県看護部長会研修（栃木県看護部長会主催）」(2018年2月10日，参加者100名）講師を務める。
６）村上は，「看護研究（新小山市民病院主催」」（2017年10月30日，50名）講師を務める。
７）村上は，日本シミュレーション医療教育学会雑誌の査読委員を務め，査読を行った。
８）村上は，一般社団法人　日本遠隔医療学会運営委員及び学術集会実行委員を務めた。
９）村上は，日本ルーラルナーシング学会評議委員（広報委員）及び査読委員を務めた。
10）八木は，日本医学教育学会学会誌「医学教育」の査読委員を務めた。

共通科目

大学院看護学研究科幹事長　成田　伸

看護学研究科博士前期課程のカリキュラムでは，高度看護実践力の育成強化を中心に編成し，共通科目と専門科目を置いている。共通科目は，高度実践看護職として機能するために，看護学領域を超えて共通に必要となる実践，教育，相談，研究，倫理，管理，並びに地域医療に関する学識を習得するために置かれている。配当年次はすべて1年次で，必修科目は「看護管理・政策論」（2単位）のみである。

選択科目は全9科目（各2単位）である。専門看護師を目指す場合は，選択科目として専門看護師教育課程共通科目の「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」の3科目，加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」の3科目以上を選択して，計14単位以上を取得する必要がある。その他の選択科目として「地域調査法」「地域医療論」の2科目がある。

1．必修科目（　）内は科目責任者を示す

【看護管理・政策論】（春山早苗教授）

到達目標は，保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法，ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することである。保健医療福祉システムのなかで質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割，医療チーム内の調整や関係者間の調整，管理的立場にある看護職との協働，制度改革への高度実践看護職の働きかけについて，担当教員2名と非常勤講師4名で教授した。履修学生数4名

2．選択科目（　）内は科目責任者を示す

【病態生理学特論】（北田志郎准教授）

到達目標は，日常的によくみられる病態を系統的に理解し，より高度な看護実践に向け，エビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することである。よく見られる主訴に関する事例演習を交えて担当教員3名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数3名

【フィジカルアセスメント特論】（村上礼子教授）

到達目標は，高度実践看護職として複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し，臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することである。シミュレーター学習を取り入れ，フィジカルイグザミネーションと複雑な健康問題に対する臨床判断プロセスを磨く技能について担当教員3名と非常勤講師8名で教授した。履修学生数3名

【臨床薬理学特論】（大塚公一郎教授）

到達目標は，薬剤の人体における作用機序，体内動態，有益な効果と有害な効果，薬剤使用の判断を理解し，投与後の患者のモニタリング，患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることである。臨床薬理学の基礎知識と看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整に関する知識と技術を担当教員2名と非常勤講師13名で教授した。履修学生数4名（科目等履修生1名を含む）

【看護実践研究論】（半澤節子教授）

到達目標は，看護分野における研究の発展について理解し，自らの臨床経験を踏まえながら，先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し，適切な研究方法とその展開方法について理解することである。看護研究の発展，研究倫理，研究方法等，研究計画書作成への基礎的知識について担当教員3名で教授した。履修学生数3名

【コンサルテーション論】（永井優子教授）

到達目標は，コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討し，コンサルテーションの実際について理解することである。講義・演習およびグループ・コンサルテーション体験に基づいて，高度実践看護職が必要とする技能と役割について担当教員1名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数4名

【看護倫理】（小原泉教授）

到達目標は，医療現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動，および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について，関係職種間の調整，提言など看護専門職の立場から

果たすべき機能について理解することである。倫理的行動と倫理的責任，倫理的分析と倫理的意思決定，ケアの倫理と生命倫理のパラダイム，倫理教育について担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数4名

【看護継続教育論】（本田芳香教授）

到達目標は，看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして，さまざまな学習形態をとる教育環境づくりの方策，基盤となる教育的かかわりの方策を理解することである。履修学生の所属組織の実際を踏まえて，関連する知識と技術について担当教員3名で教授した。履修学生数4名（科目等履修生1名を含む）

【地域医療論】（北田志郎准教授）

到達目標は，地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することである。地域ニーズのとらえ方，ニーズに即した医療の提供方法，地域の保健医療拓氏施設の有機的な連携，医療資源のアウトソーシングの実際について担当教員2名と非常勤講師2名で教授した。

【地域調査法】（春山早苗教授）

到達目標は，地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法，収集した資料やデータの分析方法，結果の読み方などを理解することである。地域において効果的かつ効率的な看護・保健活動やその管理的活動を展開する上に必要な地域の健康問題・健康ニーズを把握するための調査方法を講義と演習をとおして担当教員2名と非常勤講師1名で教授した。履修学生数2名

博士後期課程
広域実践看護学分野

研究科長　春山　早苗

1．スタッフの紹介

教　授	大塚公一郎	教　授	小原　泉
教　授	塚本　友栄	教　授	永井　優子
教　授	中村　美鈴	教　授	成田　伸
教　授	野々山未希子	教　授	春山　早苗
教　授	半澤　節子	教　授	本田　芳香
教　授	宮林　幸江	教　授	村上　礼子
教　授	横山　由美	准教授	北田　志郎
准教授	角川　志穂	講　師	鹿野　浩子

2．教育の概要

博士後期課程の学生は，1年生2名，2年生2名，3年生6名（3年目3名，4年目1名，5年目2名）で，9名が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では，ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で，看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し，看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」(2単位，必修)，「広域実践看護学特論Ⅱ」(2単位，選択)，「広域実践看護学演習」(2単位，必修)，「広域実践看護学特別研究」(6単位，必修，1～3年次）であった。専門関連科目の開講科目は「地域保健医療研究論」(2単位，選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント，施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生1名及び科目等履修生1名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）中村・横山担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法について批判的に吟味し、クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を探求する。1年生1名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅲ（メンタルヘルスケア研究法）半澤・宮林担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，国内外における精神保健医療福祉の歴史や現状を踏まえて，メンタルヘルスケアに関わる看護実践の開発につながる研究課題及び仮説の設定，研究方法について理解する。1年生1名が履修した。

【広域実践看護学演習】

本科目では，先行研究の知見の総括・評価を行い，その成果から研究課題を焦点化し，研究計画に反映できる学修となることを目指す。

システムに関するテーマについては，1年生2名が＜看護教育・看護管理＞（成田・塚本担当）を，看護ケアに関するテーマについては，1年生1名が＜クリニカルケア＞（中村・小原担当）を，1年生1名が＜メンタルヘルスケア＞（半澤・永井担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

研究指導教員を表に示す。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは5月，9月，11月，1月に開催した。博士後期課程の学生は，セミナーで毎回，特に，11月，1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い，研究課題の設定，研究対象の明確化，研究方法の検討等について，研究指導教員以外の教員にも助言を得たり，博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

表　研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	横山	本田・村上
	B	半澤	塚本・大塚
2	A	横山	大塚・春山
	B	中村	小原・成田
3	A	春山	大塚・半澤
	B	中村	春山・横山
	C	成田	永井・本田
3 4年目	A	中村	永井・本田
3 5年目	A	永井	春山・本田
	B	成田	半澤・本田

１名が学位論文審査に合格し，博士論文のテーマは「生命の危機的状況で初療に救急搬送された患者の家族が辿る代理意思決定のプロセスと看護実践の検討」であった。

【地域保健医療研究論 北田・非常勤講師担当】

本科目では，地域保健医療の将来像を踏まえ，医学，情報学等の他の学問分野における課題を見出し，人々を取り巻く地域保健医療システムに関する研究方法や最新の知見を学修する。1年生2名が履修した。

研究業績録

注　1）掲載対象は2017年1月1日から同年12月31日までである。
　　2）ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

⑴　論文

１）北田志郎：レジリアンスの観点から在宅緩和ケアを考える．心身医学57 (2) :152 - 159, 2017.

２）北田志郎：在宅医療を主とした内科診療所における精神疾患を有する患者の割合と精神科医の関与．日本社会精神医学会雑誌26 (1) :70 - 77, 2017.

３）北田志郎：在宅エンド・オブ・ライフケアを精神科サービスモデルに位置づける－「GP - 精神科医－多職種訪問チームモデル」とその展開－．こころと文化16 (2) :116-124, 2017.

４）八木（佐伯）街子，村上礼子，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，中野真理子，川上勝，北田志郎，大塚公一郎，中村美鈴，成田伸，春山早苗：特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討．日本ルーラルナーシング学会誌12：1-8，2017.

５）Shikano, Hiroko: How Interaction Takes Place When Quasi-internal Monologues Occurs: A Comparative Study in Japanese and American English. A Preliminary Research Paper. Presented to the English Department of the Graduate School of Japan Women's University As a preparatory Stage in The Writing of the Ph.D., 52. 2017.

６）Shikano, Hiroko: How the Recipient Recognizes the Quasi-Internal Monologue out of Dialogues: Cross-Linguistic Study in Japanese and English. JELS, No. 35.; 301-307. 2018.

⑵　学会発表

１）野崎章子，大塚公一郎：地域で暮らす精神障害者の東日本大震災の体験と防災対策．第36回日本社会精神医学会，東京，2017年3月3日

２）大塚公一郎：統合失調症における「生殖・世代」主題と「女性―への－推進」または「例外―への―推進」　―統合失調症慢性形態における妄想発展のメカニズム―．日本ラカン協会第23回ワークショップ，東京，2017年7月23日

３）大塚公一郎：文化精神医学史と優生学．第21回日本精神医学史学会シンポジウムⅡ．精神医学と優性思想，栃木県下野市，2017年11月12日，抄録集p28.

４）平尾温司，青山真人，杉田昭栄：ニワトリGallus domesticusの尾腺における主要組織適合抗原複合体クラスⅡ分子の発現について．第160回日本獣医学会学術集会．鹿児島．2017年9月13日　講演要旨集　p 307　2017年

５）平尾温司，川上勝，田村敦子，福田順子，村上礼子，春山早苗：プラスティネーションを用いたシミュレータ素材の作製．第5回日本シミュレーション医療教育学会．東京．2017年9月23日

６）Shikano, H.: How the Recipient Recognizes the Quasi-Internal Monologue out of Dialogues: Cross-Linguistic Study in Japanese and English. ELSJ 10th International Spring Forum, Tokyo. 2017.4.22.

７）鹿野浩子: 話し手はどのように疑似独話を使うのか―談話進行場面に見られる「なんか」の使用から―. 社会言語科学会第41回設立20周年記念大会, 東京. 2018.3.10. (社会言語科学会第41回大会発表論文集; 64-67, 2018)

⑶　著書・総説

１）大塚公一郎：妄想性障害．p 256－260．別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ37「精神医学症候群（第2版）Ⅰ－発達障害・統合失調症・双極性障害・抑うつ障害－」日本臨牀社　2017年3月

２）野田文隆，李創鎬，大塚　公一郎，鵜川晃：移住者と難民のメンタルヘルス．移動する人の文化精神医学．第5-8章担当．明石書店，東京，2017年4月（Bhugra D.,Gupta S.:Migration and Mental Health.Cambridge University Press, Cambridge,2011の翻訳）

３）北田志郎：認知症のステージ．あおぞら診療所（川越正平，山川真理子）編著：介護職のための医療とのつきあいかた．メディカ出版，東京，p.28-36，2017.

４）北田志郎：独居の人への介入．上田諭編著：認知症はこう診る．医学書院，東京，p70-76，2017.

５）北田志郎：（翻訳）不安障害．丹波嘉一郎，大中俊宏監訳：Pallium Canada緩和ケアポケットブック．メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，p12-3-8，2017.

６）鈴木美津枝，村上礼子，八木（佐伯）街子，三科志穂，淺田義和，関山友子，江角伸吾： ICTを活用した「演習」から「シミュレーション実

習」へ繋ぐ企画の評価．日本シミュレーション医療教育学会雑誌，Vol.5；30-34，2017.
７）八木（佐伯）街子，村上礼子，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，中野真理子，川上勝，大塚公一郎，中村美鈴，成田伸，春山早苗： 特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，12；1-8，2017.
８）鈴木美津枝，村上礼子，関山友子，江角伸吾，川上勝，石井慎一郎，春山早苗：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた学習支援方法の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，12；19-26，2017.

⑷ 実践報告

１）小澤雅，鹿野浩子，望月雄介: 日本語，中国語，英語の相互行為における言語文化比較: 話し手と聞き手による「やりとり」のメカニズム．JELS, No. 34: 240-241. 2017.

⑸ その他

１）大塚公一郎：書評『精神医学と制度精神療法』．こころと文化16：62，2017年2月
２）大塚公一郎：編集後記．こころと文化16：99，2017年2月
３）北田志郎：たかが便秘，されど便秘－イレウス予防のためにできること－．小山富士見台病院学習会，下野，2017年3月1日．
４）北田志郎：認知症を有する方の臨床経過とかかりつけ医に期待される役割．松戸市医師会二人主治医制に関するかかりつけ研修会，松戸，2017年7月24日．
５）北田志郎：認知症の人が最期まで地域で暮らすために－介護者も医療者も燃え尽きずにできること－芳賀郡市医師会講演会，真岡，2017年8月24日．
６）北田志郎：実臨床に活かす漢方の極意．日本統合医療学会新潟県支部設立記念講演会，新潟，2017年9月2日．
７）北田志郎：漢方薬を用いた治療を通じてこころとからだを考える．第18回新潟県薬剤師のための精神科セミナー，長岡，2017年9月3日．

基礎看護学

⑴　論文

１）小原　泉：臨床研究コーディネーターが試験実施計画書の作成や審査にかかわる意義とその実際，薬理と臨床，45(9)1429-1432，2017.

⑵　学会発表

１）Izumi Kohara, Shizuo Machida, Akiyo Taneichi,, Yoshie Watanabe, Yuji Takei,and Hiroyuki Fujiwara: Factors that influence enrollment of patients in gynecological cancer clinical trials, Oncology Nursing Society 42nd Annual Congress, Denver, USA, May 5, 2017.（ONCOLOGY NURSING FORUM, 44（2）;186, 2017）

２）笠井宏委，後澤乃扶子，小原泉，唐木範子，谷口隆雄，野崎章子，森下典子，鶴丸雅子，吉村健一，遠藤一司，山本晴子，楠岡英雄：CRC配置の現状調査，日本臨床薬理学会，横浜，2017年12月8日

３）高津戸文江，小原泉，高橋清美，田口奈名絵，前田純子，前田由利子，山中都起子，寺谷工，大澤英之，北山丈二：臨床研究の実施における院内支援体制整備の現状と課題，CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2017 in 名古屋，名古屋，2017年9月2日～3日.

４）里光やよい，村上礼子，八木街子，鈴木美津枝：特定行為研修を修了した看護師による気管カニューレの交換の実践．（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，鹿児島奄美．2017年11月24日．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；37，2017年）

５）福田順子，本田芳香，湯山美杉：終末期がん患者の在宅看取りに関する多職種チームの複雑さの要因．日本看護科学学会，仙台，2017.12.17.（日本看護科学学会第37回学術集会　電子抄録集：O 55-3,2017）

６）湯山美杉，本田芳香，小原泉，里光やよい，福田順子，飯塚由美子，岡野朋子：模擬患者導入による看護計画の実施場面からの学生の気づき．日本看護科学学会，仙台，2017.12.16.（日本看護科学学会第37回学術集会　電子抄録集：O 09-1,2017）

７）中野真理子，佐々木政史，古島幸枝，中村美鈴，藤巻郁朗，本田芳香，春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム高齢者の急変時における看護実践演習の教育効果の検討.（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，鹿児島奄美．2017年11月24日．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集;42,2017年）

８）古島幸枝，中村美鈴，中野真理子，佐々木政史，藤巻郁朗，本田芳香，春山早苗：e-learningを活用した学習活動からみてへき地で生活する看護職に対する学習支援の検討.（（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，鹿児島奄美．2017年11月24日．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集;45,2017年）

⑶　著書・総説

１）Izumi Kohara, Akiko Nosaki, Noriko Morishita, Nobuko Ushirozawa, Kazushi Endo, Hiroshi Yamada, Takao Taniguchi, Hideo Kusuoka: Core Competencies of Clinical Research Coordinators, International Journal of Bio-Science and Bio-Technology, 9（2）;1-10. 2017.

⑷　その他

１）本田芳香：地域実践看護師のコンピテンシー－訪問調査の結果から－，2017年9月2日，私立大学戦略的研究基盤形成支援事業　日本型地域ケア実践開発研究事業成果報告会.

２）湯山美杉，本田芳香，小原泉，里光やよい，福田順子，飯塚由美子，中塚麻美，浜端賢次，野沢博子，亀田美智子，高久美子，安藤恵：対人関係スキル習得ための模擬患者導入による学習の有効性に関する研究（会議録），自治医科大学看護学ジャーナル14，44，2017.

地域看護学

⑴ 論文

１）**Tsuchiya C**, Tagini S, Cafa D, Nakazawa M: Socio-environmental and behavioral risk factors associated with obesity in the capital (Honiara), the Solomon Islands; case-control study. Obesity Medicine, 7:34-42, 2017. doi：10.1016/j.obmed.2017.07.001.

２）八木（佐伯）街子，村上礼子，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，中野真理子，川上勝，北田志郎，大塚公一郎，中村美鈴，成田伸，**春山早苗**：特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，12；1-8，2017.

３）**塚本友栄**，小谷妙子，渡辺芳江，飯田久子，渡邉美智子，塩崎純子，高橋淳子，西田俊子，朝野春美：へき地医療拠点病院への派遣研修を派遣元・派遣先にとっての人材育成につなげていくための課題－派遣者の派遣先での取り組みと学びの分析から－．日本ルーラルナーシング学会誌，12；9-17，2017.

４）鈴木美津枝，村上礼子，関山友子，**江角伸吾**，川上勝，石井慎一郎，**春山早苗**：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた学習支援方法の検討－就労継続支援型で特定行為に係る看護師の研修を受ける研修生の思いに注目して－．日本ルーラルナーシング学会誌，12；19-26，2017.

５）**江角伸吾**，**春山早苗**，本田芳香，村上礼子，浜端賢次，飯塚由美子，大湾明美，波多野浩道，阿部幸恵：看護職を対象としたICTを用いた教育・研修の実態と課題－就労地域や施設規模による看護師特定行為研修の受講機会や研修内容の格差を最小限にするための方策の検討－．日本ルーラルナーシング学会誌，12；27-35，2017.

６）八木街子，村上礼子，鈴木美津枝，渡辺芳江，菅野一枝，讃井將満，石川鎮清，**春山早苗**：急性期病院における特定行為にかかわる看護師の研修制度の活用のための示唆－受講ニーズ調査の結果から－．看護展望，42（13）；61-67，2017.

７）**春山早苗**：看護師の特定行為研修の修了者の活動状況に関する研究　調査結果から見た看護管理者に求められる役割．看護管理，27（11）；894-899，2017.

８）長谷川直人，田村敦子，**鈴木久美子**，大塚公一郎：看護大学生の学生生活の充実感に関連する要因の検討．自治医科大学看護学ジャーナル，14，25-35，2017.

⑵ 学会発表

１）**Esumi S**, Sano T, Aoyama Y, Ae R, **Haruyama S**, Takamura H, Nakamura Y：Awareness and Knowledge of Adolescent Young People and Their Parents in Mongolia Regarding Sexuality．23rd congress of the World Association for Sexual Health，Prague Czech. 29．May 2017．(Final program of 23rd congress of the World Association for Sexual Health：36, 2017)

２）**Esumi S**, Sano T, Aoyama Y, Ae R, **Haruyama S**, Takamura H, Nakamura Y：Baseline survey of community-based approach with adolescents peer educator in Mongolia, 21st international epidemiological association world congress of epidemiology，Saitama JP. 22. August　2017. (Program of the 21st international epidemiological association world congress of epidemiology：114, 2017)

３）**Tsuchiya C**, Tagini S, Cafa D, Nakazawa M: Socio-Environmental Risk Factors Associated with Obesity in the Capital, the Solomon Islands, 5th Asia Pacific Conference on Public Health, Kuching, Malaysia. 10th September, 2017.

４）山縣千開，**春山早苗**：特定妊婦への支援における医療機関との連携に関わる市町村保健師活動～一事例の分析から～．日本地域看護学会第20回学術集会，別府．2017年8月6日．（日本地域看護学会第20回学術集会講演集；184，2017）

５）**塚本友栄**，赤羽由妙，人見優子，飯野直子，齋藤由利子，宮崎照子，河野順子，野澤寿美子，鱒淵清子，馬込公子：退院支援研修修了者フォローアップ研修会の成果と課題．第48回日本看護学会－在宅看護－，つくば（茨城）．2017年9月15日．（第48回日本看護学会－在宅看護－学術集会抄録集；203，2017）

６）王麗華，谷田部佳代弥，**塚本友栄**，赤羽由妙，人見優子，飯野直子，齋藤由利子，宮崎照子，河野順子，野澤寿美子，鱒淵清子，馬込公子：課題解決に向けたアクションプランの実践を設計した退院支援研修会－看護師の「退院支援の

役割」に対する認識を中心に－．第48回日本看護学会－看護管理－，札幌．2017年10月12日．（第48回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録集；232，2017）

７）赤羽由妙，野澤寿美子，鱒淵清子，馬込公子，人見優子，飯野直子，齋藤由利子，谷田部佳代弥，王麗華，**塚本友栄**，宮崎照子，河野順子：栃木県内医療機関における退院支援体制の実態調査－退院支援の体制整備に向けた課題について－．第17回日本医療マネジメント学会　栃木県支部学術集会，宇都宮．2017年10月7日．（第17回日本医療マネジメント学会学術集会　抄録集；19，2017）

８）山縣千開，**春山早苗**：生活困窮者世帯への育児支援における保健師活動の課題と活動内容～虐待予防の視点で～．第76回日本公衆衛生学会総会，鹿児島．2017年11月1日．（第76回日本公衆衛生学会総会抄録集64（10）；479，2017）

９）宮﨑美砂子，奥田博子，**春山早苗**，金谷泰宏，井口紗織：災害時における統括保健師のコンピテンシー及び役割・権限に関する意見調査．第76回日本公衆衛生学会総会，鹿児島．2017年11月1日．（第76回日本公衆衛生学会総会抄録集64（10）；592，2017）

10）**塚本友栄**，**島田裕子**，**春山早苗**：退院支援・調整に関わる地域ケアスキル獲得に向けたe-learning受講後ロールプレイ演習の実施とその評価．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，宇検（鹿児島）．2017年11月24日．（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；32，2017）

11）中野真理子，佐々木雅史，古島幸江，中村美鈴，藤巻郁朗，本田芳香，**春山早苗**：地域ケアスキル・トレーニングプログラム　高齢者の急変時における看護実践演習の教育効果の検討．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，宇検（鹿児島）．2017年11月24日．（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；33，2017）

12）古島幸江，中村美鈴，中野真理子，佐々木雅史，藤巻郁朗，本田芳香，**春山早苗**：e-learningを活用した学習活動からみたへき地で生活する看護職に対する学習支援の検討．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，宇検（鹿児島）．2017年11月24日．（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；34，2017）

13）**春山早苗**，**江角伸吾**，前田隆浩，谷憲治，井口清太郎，今道英秋，澤田努，森田喜紀，小谷和彦，古城隆雄，梶井英治：へき地診療所看護師の研鑽の実態と研修ニーズ．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，宇検（鹿児島）．2017年11月24日．（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；35，2017）

14）神田貴代，藤田美喜，小谷妙子，渡邉美智子，高橋淳子，新井里香，竹野井さとみ，渡辺芳江，朝野春美，里光やよい，**島田裕子**：Ａ大学病院で育成された看護師が派遣先施設に与える影響．日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会，宇検（鹿児島）．2017年11月24日．（日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会抄録集；38，2017）

15）八木（佐伯）街子，鈴木美津枝，村上礼子，**春山早苗**：特定行為に係る看護師の研修に関するニーズ調査．第37回日本看護科学学会学術集会，仙台．2017年12月16日．

⑶　著書・総説

１）**鈴木久美子**：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅱ節　公衆衛生看護の歴史　第1項　保健婦規則制定以前の地域における看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），24-31，2017.

２）**春山早苗**：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅱ節　公衆衛生看護の歴史　第2項　保健婦規則制定以後の保健婦活動　第3項　ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），31-70，2017.

３）**春山早苗**，平山朝子：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅲ節　ヘルスケアシステムの中で機能する看護．第3章　公衆衛生看護活動の展開方法論　第Ⅳ節　地域ケア体制づくり　第1項～第3項の1．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），73-104，299-325，2017.

４）**春山早苗**：第2章　健康課題の特性に応じた活動論　第Ⅳ節　感染症保健福祉活動　第1項～

第5項．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　各論１（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）. 日本看護協会出版会（東京），264-306, 2017.

５）**春山早苗**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第1項　へき地における公衆衛生看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京）, 150-164, 2017.

６）塩ノ谷朱美，**春山早苗**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第3項　山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京）, 185-193, 2017.

７）**青木さぎ里**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第2項　離島における公衆衛生看護活動　４）離島における保健師活動の実際：小規模離島村における活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2017年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京）, 175-184, 2017.

８）**青木さぎ里**：離島の保健師　狭さとつながりをケアにする. 青土社（東京）, 2017.

⑷　その他

１）**春山早苗**，**鈴木久美子**，**塚本友栄**，**島田裕子**，関山友子，**青木さぎ里**，**江角伸吾**，安田貴恵子，田村須賀子，山﨑洋子，中尾八重子：健康格差を縮小しソーシャルキャピタルの醸成を促進する市町村保健師の地区管理．科学研究費助成事業（基盤研究（C）（一般））2014～2016研究成果報告書，全6ページ，2017.

２）**春山早苗**，村上礼子：特集　地域を支える病院看護師の育成　地域医療に貢献する看護師特定行為研修．病院, 76（5）；371-375, 2017.

３）荒木田美香子，安齋由貴子，池戸啓子，大谷喜美江，佐川きよみ，高橋佐和子，鳥本靖子，**春山早苗**，矢島陽子：日本公衆衛生看護学会が考える「公衆衛生看護学の大系（2017）」の提案．日本公衆衛生看護学会誌，6（3）；303-310，2017.

４）**塚本友栄**：第１部　第Ⅱ章　健やかに人生を送るための基礎づくり　1子どもの健康問題の現状　1）子どもの生活習慣の現状．2次世代の健やかな育ちを支援する地域での取組み．地域医療白書　第４号．自治医科大学（栃木），30-35，40-48，2017.

５）**春山早苗**：第2部「安心して暮らせる地域医療」を構築するために　3地域医療に資する人材育成　2）へき地看護に従事する看護職の育成．地域医療白書　第4号．自治医科大学（栃木），154-160，2017.

６）**春山早苗**：へき地に勤務する看護師の看護実践能力向上のための研鑽と看護体制の現状．厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業「へき地医療において提供される医療サービスの向上とへき地医療に従事する医師の労働環境改善に係る研究」平成28年度　総括・分担研究報告書，79-102，2017.

７）永井良三，**春山早苗**，釜蒭敏，洪愛子，太田秀樹，神野正博，矢野諭，鈴木龍太，江村正，藤内美保，大塚眞理子，村上礼子，中村剛史，関山友子，八木街子，**江角伸吾**，鈴木美津枝：看護師の特定行為研修の修了者の活動状況に関する研究．厚生労働行政推進調査事業費（厚生労働科学特別研究事業）　平成28年度　総括研究報告書，全63ページ，2017.

８）**春山早苗**：統括保健師及び統括保健師を補佐する保健師が災害時に取扱う情報の管理と活用に関する現状調査－地域特性別の事例調査．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究」平成28年度　総括・分担研究報告書，37-58，2017.

９）宮﨑美砂子，奥田博子，**春山早苗**，金谷泰宏，吉富望，井口紗織：統括的役割を担う保健師の災害時のコンピテンシー（実践能力），役割・権限，育成方法に関する意見調査．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究」平成28年度　総括・分担研究報告書，78-139，2017.

10）**青木さぎ里**，**春山早苗**，**鈴木久美子**，**塚本友栄**，**島田裕子**，関山友子，**江角伸吾**，金子敬子：保健師現任教育における管理的立場にある行政職

の役割認識～小規模町村における新任期現任教育に焦点を当てて～．自治医科大学看護学ジャーナル　看護学部教員共同研究報告，14；40，2017.

11）**春山早苗**，安斎由貴子，上野まり，牛尾裕子，奥田博子，澤井美奈子，**島田裕子**：大規模特殊災害における復興期の地域づくりにかかわる保健活動－災害支援のあり方検討委員会による福島県被災市町村の訪問調査から－．日本地域看護学会第20回学術集会ワークショップ5，別府．2017年8月6日．（日本地域看護学会第20回学術集会講演集，82-83，2017）

12）荒木田美香子，安齋由貴子，池戸啓子，大谷喜美江，佐川きよみ，高橋佐和子，鳥本靖子，**春山早苗**，矢島陽子：公衆衛生看護学体系の構築　学術実践開発委員会からの提案．第5回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ橘-4，仙台．2017年1月22日．（第5回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，202，2017）

13）**春山早苗**：特定行為にかかる看護師の研修とは．第21回日本遠隔医療学会学術大会ワークショップ2「特定行為にかかる看護師の研修制度」におけるICTを用いた遠隔教育－遠隔医療の支え手としての特定行為研修修了者の可能性－，宇都宮．2017年10月1日．（第21回日本遠隔医療学会学術大会プログラム・抄録集，55-57，2017）

精神看護学

⑴ 論文

１）**鈴木美津枝，村上礼子，関山友子，江角伸吾，川上勝，石井慎一郎，春山早苗**：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた学習支援方法の検討－就労継続支援型で特定行為に係る看護師の研修を受ける研修生の思いに注目して－．日本ルーラルナーシング学会誌，12，p.19-26，2017

⑵ 学会発表

１）**石井慎一郎**，中島富有子，瀬戸山美和，大川内鉄二：看護学生の情動知能とかかわり先に関する縦断調査－入学から1年半年後まで－．日本教師学学会第18回大会，埼玉．2017年3月5日．（日本教師学学会第18回大会；94-95，2017）

２）荒川麗，中島富有子，倉成由美，應戸麻美，**石井慎一郎**，阿部亜紀子，本多京子：精神科看護師の社会的スキルの習熟状況と看護の意識との関連．第42回日本精神科看護学術集会，岡山．2017年6月16日．（第41回日本精神科看護学術集会プログラム・抄録集；90，2017）

３）**永井優子，半澤節子，石井慎一郎，路川達阿起**，千葉理恵，板橋直人，宮城純子：精神看護学実習の地域における展開方法－看護基礎教育における教育実践から－．日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会，北海道．2017年6月24日．日本精神保健看護学会．（日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会 プログラム・抄録集；86，2017）

４）中島富有子，**石井慎一郎**，應戸麻美，倉成由美：精神科看護師の認知行動療法習得のプロセス．日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会，北海道．2017年6月24日．日本精神保健看護学会．（日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会 プログラム・抄録集；172，2017）

５）酒井克子，谷田部佳代弥，**半澤節子**：退院および地域生活支援に関連する社会資源についての精神科看護職の経験，第27回日本精神保健看護学会学術集会・総会，北海道，2017年6月25日（日本精神保健看護学第27回学術集会・総会 プログラム・抄録集；128,2017）

６）**石井慎一郎**，板橋直人，路川達阿起，佐藤貴紀：看護職の感情の制御と省察に関する研究．日本感情心理学会第25回大会，京都．2017年6月25日．日本感情心理学会．（日本感情心理学会25（Supplement）；40，2017）

７）**村上礼子，八木街子，鈴木美津枝，永井優子，春山早苗**：「特定行為にかかる看護師の研修制度」におけるICTを用いた遠隔教育 看護師特定行為研修における実践教育へのICT活用の有効性，第21回日本遠隔医療学会学術大会，栃木県,2017年10月1日（第21回日本遠隔医療学会学術集会抄録集；57,2017）

８）**石井慎一郎**，瀬戸山美和，大川内鉄二，**路川達阿起，佐藤貴紀**：看護学生の情緒知能と他者とのかかわりに関する研究－入学時・１年後・２年後の縦断調査―．日本教育心理学会第59回総会，愛知．2017年10月8日．日本教育心理学会．（日本教育心理学会第59回総会発表論文集；546，2017）

９）**石井慎一郎**，瀬戸山美和，大川内鉄二，**路川達阿起，佐藤貴紀**：看護学生の統合失調症の社会的距離－入学から１年半後の縦断調査結果から－．第24回日本精神科看護専門学術集会，石川．2017年12月2日．日本精神科看護協会．（第24回日本精神科看護専門学術集会プログラム・抄録集；56，2017）

10）**石井慎一郎**，板橋直人，杉田百合子，**路川達阿起，佐藤貴紀**：精神科看護職の他者とのかかわりと職務エンパワメントとの検討．第24回日本精神科看護専門学術集会，石川．2017年12月2日．日本精神科看護協会．（第24回日本精神科看護専門学術集会プログラム・抄録集；99，2017）

11）**石井慎一郎**，川野豊，森直美，杉田百合子，片山砂織，**路川達阿起，佐藤貴紀**：精神科看護職の身体拘束の見込みに関する研究－認知症患者の仮想事例を用いて－．第24回日本精神科看護専門学術集会，石川．2017年12月2日．日本精神科看護協会．（第24回日本精神科看護専門学術集会プログラム・抄録集；198，2017）

12）**石井慎一郎**，大川内鉄二，瀬戸山美和，**路川達阿起，佐藤貴紀**：看護学生の情動知能と他者とのかかわりに関する研究－専門学校生と大学生の比較－．日本情動学会第7回大会，富山．2017年12月9日．日本情動学会．（日本情動学会第7回大会；30，2017）

⑶ その他

１）千葉理恵，**永井優子**，岩沢秀治，鈴木恵子：

地域で生活する精神疾患をもつ人々を対象とした，ベネフィット・ファインディングの関連要因の検討，自治医科大学看護学ジャーナル14：39,2017.

２）荒川麗，中島富有子，倉成由美，應戸麻美，**石井慎一郎**，阿部亜紀子，本多京子：精神科看護師の社会的スキルの習熟状況と看護の意識との関連．日本精神科看護学術集会誌，60（1）；102-103，2017.

母性看護学

⑴　論文

１）八木街子，村上礼子，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，中野真理子，川上勝，北田志郎，大塚公一郎，中村美鈴，**成田伸**，春山早苗：特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，128；1-8，2017.

２）北川良子，**成田伸**：助産師の職業生活の変化とその変化に影響する要因．日本母性看護学会誌，17（1）；61-70，2017.

３）小林由美，**成田伸**：助産外来の対象をリスクのある妊婦に拡大した新助産外来立ち上げ－母性看護専門看護師実習生による調整機能の検討－．日本母性看護学会誌，17（1）；97-103，2017.

４）佐藤ひさ代，**成田伸**：初めて妊娠糖尿病と診断された妊婦の自己管理上の課題の分析．日本母性看護学会誌，17（1）；113-119，2017.

５）北川良子，**成田伸**：出産・子育てによる退職後ブランクを経て職業生活を再開した助産師の体験．栃木母性衛生，43；22-25，2017.

⑵　学会発表

１）北川良子，**成田伸**：離職・転職経験のある助産師の職業生活の再開に影響を与えた助産師同士のネットワーク．第73回日本助産師学会，東京都品川区，2017年6月3日.

２）鈴木仁子，**成田伸**：切迫早産で入院した母親の母乳育児の意向を支える看護の検討－妊娠期から出産後1か月までの支援を通して－．第19回日本母性看護学会学術集会，兵庫県西宮市，2017年6月11日.

３）**野々山未希子**：「次世代の健康を育むための性感染症予防教育」に関わる本学会の活動，第30回日本性感染症学会学術大会，北海道，2017年12月2日．日本性感染症学会誌　第28巻（第2号）；181，2017

４）**野々山未希子**：中高生の性認識・行動と日常生活への認識，第30回日本性感染症学会学術大会，北海道，2017年12月2日．日本性感染症学会誌　第28巻（第2号）；231，2017.

⑶　著書・総説

１）（訳書）監訳：中村美鈴，江川幸二，訳者：**成田伸**，**望月明見**，工藤里香，他40名，高度実践看護　総合的アプローチ．ヘルス出版，原著（ADVANCED PRACTICE NURSING An Integrative Approach 5th EDIYION）本人担当部分：第17章「認証看護助産師」PP463-485，2017.

２）（訳書）監訳：中村美鈴，江川幸二，訳者：**野々山未希子**，他42名，高度実践看護　総合的アプローチ．ヘルス出版，原著（ADVANCED PRACTICE NURSING An Integrative Approach 5th EDIYION）本人担当部分：第2章「高度看護実践の概念化」PP27-65，2017.

３）**角川志穂**：地域医療白書　第1章　安心・安全に産み育てられる体制づくり．4号；5-29，2017.

４）**野々山未希子**：性感染症予防教育における医療者の役割，化学療法の領域，Voi.33 No.12；99-104，2017.

⑶　その他

１）**角川志穂**，篠原有美子，寒河江かよ子，原啓子：乳幼児をもつ母親を地域で孤立させないための看護支援の検討　DVDによる育児支援情報の提供を試みて．自治医科大学看護学部ジャーナル；14巻，42，2017.

２）森田展彰，新井清美，小池純子，渡邊敦子，山口玲子，大宮宗一郎，**望月明見**，受田恵理，道重さおり，野村照幸，安里明友美，若林肇：更生保護における薬物事犯への支援に関する研究　厚生労働科学研究費補助金における障碍者政策総合研究事業（精神障害分野）による課題名「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究」平成28年度　総括・分担研究報告書：p119-144

小児看護学

⑴ 論文

１）長谷川直人，**田村敦子**，鈴木久美子，大塚公一郎：看護大学生の学生生活の充実感に関連する要因の検討．自治医科大学看護学ジャーナル，14巻；25-35，2017.

⑵ 学会発表

１）**田村敦子**，水田耕一，吉田幸世，尾沼恵梨香：生体肝移植を経験した青年期患者のプロセスを知る．第53回移植学会学術集会　臓器横断的シンポジウム11　小児移植におけるtransitional（移行期）ケアのあり方，旭川，2017年9月9日．第53回移植学会学術集会誌52巻；268，2017.

２）尾沼恵梨香，**田村敦子**，水田耕一：肝移植を経験した青年期の患者が服薬し続ける背景．第53回移植学会学術集会，旭川，2017年9月8日．第53回移植学会学術集会誌53巻；387，2017.

３）小林京子，小口祐子，**田村敦子**，宮下佳代子：小児専門看護師の移行医療への認識と関わりの現状．日本看護科学学会第37回学術集会，仙台，2017年12月17日．日本看護学会学術集講演集37巻；109, 2017.

４）高島妙子，小堀憂子，**手塚園江**，田邉由美子，相場雅代，中村文人，多賀直行：小児集中治療室における火災発生時の避難方針の決定と共有について．第44回日本集中治療医学会学術集会，札幌，2017年3月10日.（日本集中治療医学会雑誌24巻; O49-5，2017）

５）辻本健，**横山由美**：小児がん患児・家族への告知における看護実践の現状と影響要因，愛媛，2017．11.11.（日本小児血液・がん学会雑誌，53(4)，452，2017.）

⑶ 著書・総説

１）**田村敦子**，**横山由美**（訳）：高度実践看護－統合的アプローチ（5th edi.）第13章倫理的意思決定：330-361,2017.

２）小林京子，横山由美（訳）：高度実践看護－統合的アプローチ（5th edi.）第23章高度実践看護のアウトカムとパフォーマンス改善に関する研究の動向：617-651, 2017.

⑷ その他

１）**田村敦子**：2)ICTの面からみた子どもの現状．35-36；自治医科大学地域医療白書編集委員会編：地域医療白書第4号 - 新しい地域医療のかたち～みんなで作る地域社会のなかで～．自治医科大学, 2017.

２）**田村敦子**：平成26年度学生の学習状況・学習環境状況調査報告書．11余暇活動. 29-40, 2017.

３）**横山由美**：平成26年度学生の学習状況・学習環境状況調査報告書．5カリキュラムの評価，6講義，セミナー，演習，看護学実習の評価，7履修ガイダンスの評価，8ポートフォリオの評価. 12-19, 2017.

成人看護学

⑴　論文

１）Shin Saito, **Misuzu Nakamura**, Hosoya Y, Kitayama,Sata N,Alan Lefor: Postoperative quality of life and dysfunction in patients after combined total gastrectomy and esophagectomy., Ann Med Surg, 2017Aug 24;22:34-38.2017.

２）**中村美鈴**：急性・重症患者の回復を促す看護実践モデル構築に向けた取り組み，日本クリティカルケア看護学会誌，13（1）；1-10，2017．DOI: https://doi.org/10.11153/jaccn.13.1_1

３）**長谷川直人**，田村敦子，鈴木久美子，大塚公一郎：看護大学生の学生生活の充実感に関連する要因の検討．自治医科大学看護学ジャーナル，14；25−35，2017.

４）門林道子，城丸瑞恵，仲田みぎわ，**佐藤幹代**：「書く」ことでのケアー―乳がん・婦人科がん体験者への臨床応用の試み―，保健医療社会学論集，28(1) 44-55, 2017.

⑵　学会発表

１）Hiroaki Sato, **Misuzu Nakamura**:A Literature Review on Factors and Nursing Approaches Promoting the Recovery of Patients Receiving Critical Care, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2017.3.

２）**Ayaka Sasaki**, **Mikiyo Sato**, **Misuzu Nakamura**, **Naoto Hasegawa**, Masashi Sasaki, **Mariko Nakano**: Effectiveness of Didactics and Learninf through Visual Impairment Simulations, 第37回日本看護科学学会学術集会，2017年12月16日．（日本看護科学学会学術集会講演集37回；PA-05-1, 2017）

３）佐藤博昭，**中村美鈴**：術後期にある食道がん患者に対する非薬理学的ケアによる痛み緩和の検討，仙台，2017年6月．（日本クリティカルケア看護学会誌，13（2）; 119, 2017.）

４）阿久津美代，**中村美鈴**：急性重症患者の精神的回復力を促す看護実践の検討，仙台，2017年6月．（日本クリティカルケア看護学会誌，13（2）; 90, 2017.）

５）門林道子，**佐藤幹代**：がん体験者へのクリエイティブ・ライティング・プログラムの開発，日本サイコオンコロジー学会総会・日本臨床死生学会総会合同大会プログラム・抄録集　30回・23回 157-157,2017.

６）森田夏実，竹内登美子，和田恵美子，高橋奈津子，**佐藤幹代**：健康と病いの語り（DIPEx-Japan）の患者の語り（ナラティブ）から何を学ぶか（Part 6）　医療者と患者・家族のより良いコミュニケーション能力獲得を目指した授業展開，日本看護学教育学会誌，27 105-105 ,2017.

７）長谷川直人，**中野真理子**，佐々木雅史，**中村美鈴**，**佐藤幹代**，**佐々木彩加**，**古島幸江**：学内看護演習を担当した臨床指導者の教育体験，第37回日本看護科学学会学術集会，2017年12月16日．（日本看護科学学会学術集会講演集37回；O16-1，2017）

８）**長谷川直人**，馬場千恵子，村上礼子：看護師特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」講義科目の運営評価．第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，福岡．2017年9月17日．（日本糖尿病教育・看護学会誌　21（特別号）；143，2017）

９）**中野真理子**，佐々木雅史，**古島幸江**，**中村美鈴**，**藤巻郁朗**，本田芳香，春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム　高齢者の急変時における看護実践演習の教育効果の検討，第11回日本ルーラルナーシング学会学術集会，2017年11月25日．（日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；P1-1-2,2017）

10）**古島幸江**，**中野真理**子，**中村美鈴**，佐々木雅史，**佐々木彩加**，**長谷川直人**，**佐藤幹代**：開腹手術を受けた成人の早期離床に対する看護演習における学生の学びのあり様，第37回日本看護科学学会学術集会，2017年12月16日．（日本看護科学学会学術集会講演集37回；O11-4，2017）

11）**古島幸江**，**中村美鈴**，**中野真理子**，佐々木雅史，**藤巻郁朗**，本田芳香，春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム　e-learningを活用した学習活動からみたへき地で生活する看護職に対する学習支援の検討，第11回日本ルーラルナーシング学会学術集会，2017年11月25日．（日本ルーラルナーシング学会第13回学術集会抄録集；P1-1-3,2017）

12）古都昌子，鈴木佳代，吉田千鶴，佐久間和幸，新井麻紀子，大谷則子，**古島幸江**，鈴木真由美：看護学生の『臨床の知』から響き合う看護学実習を再考する，日本看護学教育学会第27回学術

集会，2017年8月18日.（日本看護学教育学会誌27巻；117，2017）

⑶ 著書・総説

１）**中村美鈴**・江川幸二監修：高度看護実践―統合的アプローチ―，へるす出版，2017.（5th Advanced Pratice Nursing―An Integrative Approch―）

２）明石惠子監修：周手術看護，**中村美鈴**分担執筆：担当箇所（2章），手術後の患者の看護，内視鏡手術を受ける患者の看護，メディカ出版，2017.

３）中野真理子：クリティカルケア領域における身体抑制の現状と看護実践．看護技術，vol.63；53-61 メヂカルフレンド社，2017.

⑷ 実践報告

１）八木街子，村上礼子，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，**中野真理子**，川上勝，北田志郎，大塚公一郎，**中村美鈴**，成田伸，春山早苗：特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，（1881-2783）12巻; Page1-8（2017.02）.

⑸ 資料

１）**長谷川直人**，村岡宏子，豊田早苗，馬場千恵子，渡辺芳江，長島まゆみ，手塚佳寿子，河原美智子，藤井美子：働く2型糖尿病患者の感情負担度・ストレス対処と血糖コントロールとの関連．日本看護学会論文集：慢性期看護，47；67－70，2017

老年看護学

⑴　論文

１）**浜端賢次**，小谷和彦：医介連携の現状と課題に関する文献検討．自治医科大学紀要，40；53-63, 2017.

２）Masaru Kawakami, Shogo Toba, Kohei Fukuda, Shinya Hori, Yuki Abe, Koichi Ozaki : Application of Deep Learning to Develop a Safety Confirmation System for the Elderly in a Nursing Home. JRM, 29 (2) ; 338-345,2017.

３）鈴木美津枝，村上礼子，関山友子，江角伸吾，**川上勝**，石井慎一郎，春山早苗：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた学習支援方法の検討　就労継続支援型で特定行為に係る看護師の研修を受ける研修生の思いに注目して，日本ルーラルナーシング学会誌，12, 19-26, 2017.

４）八木街子［佐伯］, 村上礼子，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，中野真理子，**川上勝**，北田志郎，大塚公一郎，中村美鈴，成田伸，春山早苗，特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討，日本ルーラルナーシング学会誌，12, 1-8, 2017.

５）**清水みどり**，吉本照子，杉田由加里：摂食嚥下機能低下を認める特別養護老人ホーム入所者の経口摂取支援のための看護職役割行動指標の作成－看護－介護連携に着目して－．千葉看護学会誌 23 (1) , 11-19, 2017.

⑵　学会発表

１）**川上勝**：避難所における災害支援物資の有効活用に関する研究 ―ペットボトル連結具の開発―．鳥取県．2017年8月26日．（日本災害看護学会大19回年次大会講演集　19 (1) ; 121, 2017）

２）戸田浩司，**川上勝**，塚本浩章：摂食嚥下障害患者における経口摂取訓練のためのボトル装着型定量コップの開発．東京都．2017年9月15日．（日本摂食嚥下リハビリテーション学会　21 (3) ;351, 2017）

⑶　資料

１）**浜端賢次**：高齢者の倫理的課題に関する研究の展望．地域ケアリング，19 (14) ；87-89, 2017.

２）**浜端賢次**：地域包括ケアにおける看護職と多職種連携に関する研究.地域ケアリング, 19 (10) ；81-83, 2017.

３）**浜端賢次**，**宮林幸江**，簗瀬順子，石川裕子，福原江美，増渕美幸，水野百子，押久保絵美，高田沙織，安藤恵：安全帯解除基準のガイドライン作成に関する研究.自治医科大学看護学ジャーナル，14；46，2017.

４）湯山美杉，本田芳香，小原泉，里光やよい，福田順子，飯塚由美子，中塚麻美，**浜端賢次**，野澤博子，亀田美智子，高久美子，安藤恵：対人関係スキル習得のための模擬患者導入による学習の有効性に関する研究．自治医科大学看護学ジャーナル，14；44，2017.

⑷　その他

１）**川上勝**：介護現場の“あったらいいね”をカタチに. KAKUSHIN2017 VE全国大会, 東京都, 2017年10月24日.（VE全国大会資料集（CD-ROM））

看護技術開発学

⑴ 論文

１）**Yagi,M S.**, Tsuzuku,S., Miura,N., Lefor, A K.:Blended Learning Improves Physical Assessment by Nursing Students. International Journal On Advances in Life Sciences, 9(3&4); 176-185, 2017.

２）江角伸吾，春山早苗，本田芳香，**村上礼子**，浜端賢次，飯塚由美子，大湾明美，波多野浩道，阿部幸恵：看護職を対象としたICTを用いた教育・研修の実態と課題　就労地域や施設規模による看護師特定行為研修の受講機会や研修内容の格差を最小限にするための方策の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，12；27-35，2017.

３）鈴木美津枝，**村上礼子**，関山友子，江角伸吾，川上勝，石井慎一郎，春山早苗：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた学習支援方法の検討　就労継続支援型で特定行為に係る看護師の研修を受ける研修生の思いに注目して．日本ルーラルナーシング学会誌，12；19-26，2017.

４）**八木（佐伯）街子**，**村上礼子**，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，佐々木雅史，中野真理子，川上勝，北田志郎，大塚公一郎，中村美鈴，成田伸，春山早苗：特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討．日本ルーラルナーシング学会誌，12；1-8，2017.

５）鈴木美津枝，**村上礼子**，**八木（佐伯）街子**，三科志穂，浅田義和，関山友子，江角伸吾：ICTを活用した「演習」から「シミュレーション実習」へ繋ぐ企画の評価．日本シミュレーション医療教育学会誌，5；30-34，2017.

⑵ 学会発表

１）**Yagi,M S.**, Tsuzuku,S., Miura,N.: Effects of a Blended Learning System on Improving the Physical Assessment Ability of Nursing Students. eTELEMED 2017 : The Ninth International Conference on eHealth, Telemedicine, and Social Medicine, Nice. 2017年3月23日. (Proceedings for eTELEMED; 91-96, 2017)

２）**Yagi, M S.**, Suzuki,M., Suzuki,Y., Nakamura,T., **Murakami, R.**: Effects of blended learning on the clinical reasoning process of Japanese nurses who are trained in Specified Medical Acts. The Association for Medical Education in Europe 2017, Helsinki. 2017年8月28日

３）Asada, Y., **Yagi, M S.**: A literature review of the use of moodle in medical education: review of abstracts from PubMed. International Session of the 49th Annual Meeting of the Japan Society for Medical Education. Sapporo. 2017年8月18日

４）Masuda,M., Sugiyama,F., Shogaki,J., Matsumoto,K., Yamamoto,M., **Yagi,M S.**, Matsuda,M.: Development and evaluation of a scenario-based neurological simulation program for mid-level nurses. The International Meeting on Simulation in Healthcare 2017, Orland. 2017年1月30日.

５）**Yagi,M S.**, **Murakami,R.**, Suzuki,M., Asada,Y., Sekiyama,Y., Haruyama,S.: How to make e-learning successful using online discussion forums for nurses pertaining to specified medical acts in Japan. The 14th Asia Pacific Medical Education Conference, Singapore, 2017年1月13日. Proceeding of the 14th Asia Pacific Medical Education Conference (APMEC); 330.

６）**村上礼子**：救急領域で特定行為研修を活用するための方略．第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会（パネリスト），東京，2017年5月27日.

７）**村上礼子**，春山早苗，**八木街子**，中井智子，折笠清美，菅原明美，埴田真彰：インフォメーション・エクスチェンジ33　特定行為研修の指定研修機関と協力施設との連携上の課題と今後の展望．第21回日本看護管理学会学術集会，神奈川，2017年8月21日．第21回日本看護管理学会学術集会抄録集；215，2017.

８）長谷川直人，馬場千恵子，**村上礼子**：看護師特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」講義科目の運営評価．第22回日本糖尿病教育・看護学会，福岡，2017年9月17日．日本糖尿病教育・看護学会誌，21（特別号）；143，2017.

９）**村上礼子**，**八木街子**，鈴木美津枝，永井優子，春山早苗：看護師特定行為研修における実践教育へのICT活用の有効性．第21回日本遠隔医療学会学術大会，栃木，2017年10月1日．第21回日本遠隔医療学会学術大会プログラム・抄録集；57，2017.

10）**八木（佐伯）街子**：看護教育におけるシミュ

レーション教育の課題と「これから」につながる実践例．第12回日本医学シミュレーション学会学術集会，島根．2017年3月19日．
11）**八木（佐伯）街子**，鈴木美津枝，**村上礼子**：特定行為に係る看護師の研修に関するニーズ調査．第37回日本看護科学学会学術集会，宮城，2017年12月16日．
12）鈴木美津，**村上礼子**，**八木（佐伯）街子**：外科的デブリードマン練習用パッドの効果と課題．第37回日本看護科学学会学術集会，宮城，2017年12月17日．

⑶　**著書・総説**
１）春山早苗，村上礼子：地域医療に貢献する看護師特定行為研修，病院，76（5），371-375, 2017.

⑷　**その他**
１）**Yagi, M S.**, Suzuki, M., **Murakami, R.**: Effect of role play simulation training for advance practice nurses to expand roles assessed from portfolios. Simulation in Healthcare, 12(6)；e19, 2017.
２）**村上礼子**：地域医療に貢献する看護師特定行為研修．病院, 76(5)；371-375, 2017.
３）**八木（佐伯）街子**，**村上礼子**，鈴木美津枝，渡辺芳江，菅野一枝，讃井將満，石川鎮清，春山早苗：急性期病院における特定行為にかかわる看護師の研修制度の活用のための示唆―受講ニーズ調査の結果から―．看護展望，42(13)；1253-1259, 2017.
４）淺田義和，**八木街子**：ＬＭＳ（Learning Management System)で教材を作ってみよう．新しい医学教育の流れ，17(1)；41-44，2017.
５）**村上礼子**：特別講演2　看護師特定行為研修の現状～指定研修機関の取り組み～，日本看護歴史学会誌, 30（30）,7-21,2017.
６）**村上礼子**：特定行為研修における実習指導（共通科目）のための手引き．平成29年度厚生労働省看護師職員確保特別事業，全82頁，2017.
７）永井良三，春山早苗，釜菟敏，洪愛子，太田秀樹，神野正博，矢野諭，鈴木龍太，江村正，藤内美保，大塚眞理子，**村上礼子**，鈴木美津江，中村剛史，**八木街子**，関山友子，江角伸吾：看護師の特定行為研修の修了者の活動状況に関する研究．平成28年度　厚生労働省行政推進調査事業（厚生労働科学特別事業）総合報告書，全42頁，2017.

資　　料

2017年度（平成29年度）看護学部学年暦

○前学期

４月３日（月）	ガイダンス（2・3・4年）
４月４日（火）	授業開始（2・3・4年）
４月５日（水）～６日（木）	オリエンテーション（1年）
４月７日（金）	入学式、オリエンテーション（1年）
４月10日（月）	授業開始（1年）
４月29日（土）～５月７日（日）	春季休業
５月８日（月）～６月２日（金）	前学期実習（3年）
６月12日（月）～７月21日（金）	
５月14日（日）	創立記念日
６月５日（月）～６月９日（金）	対象の理解実習（1年）
７月13日（木）～７月14日（金）	定期試験（4年）
７月24日（月）～８月４日（金）	総合実習（4年）
７月18日（火）～７月25日（火）	定期試験（1・2年）
８月２日（水）～９月24日（日）	夏季休業
９月４日（月）～９月６日（水）	再試験

○後学期

９月25日（月）	授業開始
８月28日（月）～11月２日（金）	助産学実習（4年）
９月22日（金）～10月５日（木）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月６日（金）～10月８日（日）	学園祭
10月10日（火）～10月23日（月）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月20日（月）～12月22日（金）	後学期実習（3年）
１月５日（金）～２月16日（金）	
12月23日（土）～１月３日（水）	冬季休業
２月５日（月）～２月９日（金）	定期試験（1・2年）
２月23日（金）～２月26日（月）	再試験
３月２日（金）	卒業式
３月17日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成30年3月31日現在）

１．教　員　数　　43名

２．学　生　数　　419名

4年生（平成26年4月1日入学）	105名
3年生（平成27年4月1日入学）	105名
2年生（平成28年4月1日入学）	104名
1年生（平成29年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1．教員

職　名	氏　名	主要担当科目
教　授	春山　早苗	地域看護学
教　授	大塚　公一郎	看護基礎科学
教　授	小原　　泉	基礎看護学
教　授	塚本　友栄	地域看護学
教　授	永井　優子	精神看護学
教　授	中村　美鈴	成人看護学
教　授	成田　　伸	母性看護学
教　授	野々山　未希子	母性看護学
教　授	半澤　節子	精神看護学
教　授	本田　芳香	基礎看護学
教　授	宮林　幸江	老年看護学
教　授	横山　由美	小児看護学
教　授	村上　礼子	
（兼）		
准教授	川上　　勝	老年看護学
准教授	北田　志郎	看護基礎科学
准教授	佐藤　幹代	成人看護学
准教授	里　光やよい	基礎看護学
准教授	鈴木　久美子	地域看護学
准教授	角川　志穂	母性看護学
准教授	浜端　賢次	老年看護学
准教授	平尾　温司	看護基礎科学
講　師	飯塚　由美子	基礎看護学
講　師	石井　慎一郎	精神看護学
講　師	島田　裕子	地域看護学
講　師	鹿野　浩子	看護基礎科学
講　師	清水　みどり	老年看護学
講　師	関山　友子	看護基礎科学
講　師	田村　敦子	小児看護学
講　師	中野　真理子	成人看護学
講　師	長谷川　直人	成人看護学
講　師	福田　順子	基礎看護学
講　師	藤巻　郁朗	成人看護学
講　師	望月　明見	母性看護学
講　師	八木　街子	基礎看護学
助　教	青木　さぎ里	地域看護学
助　教	江角　伸吾	地域看護学
助　教	岡野　朋子	基礎看護学
助　教	佐々木　彩加	成人看護学
助　教	佐藤　貴紀	精神看護学
助　教	手塚　園江	小児看護学
助　教	土谷　ちひろ	地域看護学
助　教	古島　幸江	成人看護学
助　教	路川　達阿起	精神看護学
助　教	湯山　美杉	基礎看護学

※平成29年4月1日～平成30年3月31日在職者
（各職階ごとの50音順）

2．事務部

職　名	氏　名
大学事務部長	吉野　和久
大学事務副部長（看護学部担当）	船越　　正

（看護総務課）

職　名	氏　名
課　　長	大山　純子
課長補佐（兼）係長	飯村　久恵
主任主事	福澤　弘美
主任主事	直井　賢治
主　　事	森下　寿美子

（看護学務課）

職　名	氏　名
課　　長	安島　幸子
課長補佐	湯浅　芳恵
係　　長	松本　恵美子
主任主事	佐藤　美里
主　　事	渡辺　慎吾
主　　事	野口　大輔
嘱　　託	髙槻　祥子
嘱　　託	中村　里子

2017年度（平成29年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

４月６日（木）	入学式
	オリエンテーション，授業開始
４月14日（金）	履修計画の提出締切
５月14日（日）	創立記念日

○後期

10月２日（月）	授業開始
11月６日（月）	研究構想発表会（前期課程）
12月１日（金）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（後期課程）
12月18日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（前期課程）
１月５日（金）	論文審査・口頭試問（後期課程）
１月５日（金）～１月30日（火）	論文審査期間（後期課程）
１月22日（月）～１月24日（水）	論文審査・口頭試問（前期課程）
１月22日（月）～１月30日（火）	論文審査期間（前期課程）
２月13日（火）	学位論文発表会（最終試験）
２月28日（水）	学位論文（保存用）最終締切
３月19日（月）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成30年3月31日現在）

１．教　員　数	21名
２．学　生　数	24名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	9（5）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	5（2）名
3年生（長期履修生度利用者）※博士後期	6（6）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（1）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1．教員

職　名	氏　名	主要担当科目
教　授	春　山　早　苗	地域看護管理学
教　授	大　塚　公一郎	共　通　科　目
教　授	小　原　　泉	がん看護学
教　授	塚　本　友　栄	地域看護管理学
教　授	永　井　優　子	精神看護学
教　授	中　村　美　鈴	クリティカルケア看護学
教　授	成　田　　伸	母性看護学
教　授	野々山　未希子	母性看護学
教　授	半　澤　節　子	精神看護学
教　授	本　田　芳　香	がん看護学
教　授	宮　林　幸　江	老年看護管理学
教　授	横　山　由　美	小児看護学
教　授	村　上　礼　子	看護技術開発学
（兼）		
准教授	川　上　　勝	老年看護管理学
准教授	北　田　志　郎	共　通　科　目
准教授	佐　藤　幹　代	クリティカルケア看護学
准教授	里　光　やよい	看護技術開発学
准教授	鈴　木　久美子	地域看護管理学
准教授	角　川　志　穂	母性看護学
准教授	浜　端　賢　次	老年看護管理学
講　師	福　田　順　子	看護技術開発学
講　師	八　木　街　子	看護技術開発学

※平成29年4月1日～平成30年3月31日在職者
（各職階ごとの50音順）

2．事務部

職　名	氏　名
大学事務部長	吉　野　和　久
大学事務副部長（看護学部担当）	船　越　　正

（看護総務課）

職　名	氏　名
課　　長	大　山　純　子
課長補佐（兼）係長	飯　村　久　恵
主任主事	福　澤　弘　美
主任主事	直　井　賢　治
主　　事	森　下　寿美子

（看護学務課）

職　名	氏　名
課　　長	安　島　幸　子
課長補佐	湯　浅　芳　恵
係　　長	松　本　恵美子
主任主事	佐　藤　美　里
主　　事	渡　辺　慎　吾
主　　事	野　口　大　輔
嘱　　託	髙　槻　祥　子
嘱　　託	中　村　里　子

編　集　後　記

多くの皆様方のご協力により，本号上梓の運びとなりましたことに感謝申し上げます。

本年報は，学部・大学院の教育の様子や，教員の研究活動や社会貢献の実情が詳細に記載されていますが，教育の学部・大学院の委員会活動の報告の文面からも，講義・演習・実習という学習の場面以外でも，教職員が学生・院生を教育・支援していることが伝わってくると思います。

この度，ご多忙な中，期日までにご提出くださった皆様，しつこい催促で焦らせてしまったかもしれない皆様の汗と涙の原稿をお手元に届けることができました。ご寄稿いただいた教員の皆様と，編集作業にご協力いただいた事務職員の皆様に，厚く御礼申し上げます。

本年報が，本学の学部および大学院の教育・研究の活性化と発展に寄与し，ひいては看護学の発展に貢献できるものであるよう願い，次号以降も努めて参りたいと思います。

（平成31年3月　編集委員会　副委員長　野々山　未希子）

編集委員会

自治医科大学看護学部
委 員 長　村上　礼子
副委員長　野々山　未希子
委　　員　田村　敦子
委　　員　里光　やよい
委　　員　鹿野　浩子
委　　員　八木　街子
編集担当　看護総務課
　　直井　賢治

自治医科大学看護学部年報（第16号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第12号）

平成31年３月31日発行

発　行　者　学部長（研究科長）　春　山　早　苗
編集責任者　編集委員会委員長　　村　上　礼　子
発　行　所　自治医科大学看護学部
栃木県下野市薬師寺3311－159
電話　0285（58）7409
印　刷　所　㈱松井ピ・テ・オ・印刷
栃木県宇都宮市陽東5－9－21
電話　028（662）2511㈹